

1 各分野における男女の地位の平等感

要点

- ◆ 「学校教育」の分野では男女の地位の平等感が突出して高い。
- ◆ 「学校教育」「法律・制度」以外の分野では、平等よりも男性優遇と考える割合が高い。
- ◆ 全般的に、女性の方が男性優遇の考えが強い。
- ◆ 経年的には、いずれの分野においても男性優遇と考える割合が減少する傾向にある一方、平等と考える割合は増加してきており、平等感は徐々に高まりつつある。

各分野における男女の地位の平等感について聞いたところ、「平等である」と答えた割合は【学校教育で】で突出（70.5%）しており、次いで【法律や制度の上で】（39.9%）が続く。その他の分野では総じて「平等である」とする割合よりも、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた『男性優遇』と答えた割合が高く、【社会通念・習慣やしきたりなどで】（76.7%）、【政治や行政の施策・方針決定の場で】（59.4%）、【職場で】（57.3%）、【家庭生活上で】（51.2%）、【町内会や地域で】（46.9%）の順で『男性優遇』と考える割合が高い。

性別では、全般的に女性の方が『男性優遇』の回答割合が高く、「平等である」と答えた割合は男性の方が高い。

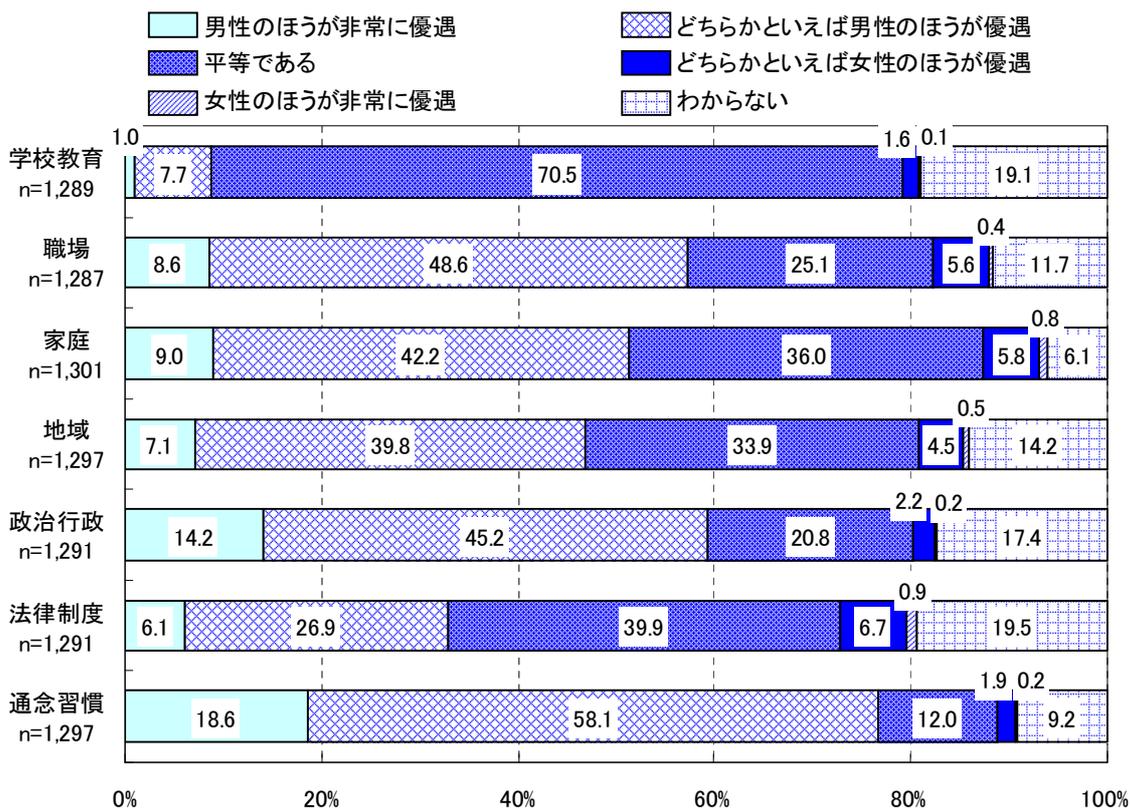
【社会通念・習慣やしきたりなどで】を年代別で見ると、『男性優遇』の割合が高いなかでも 30～60 歳代の女性で「男性の方が非常に優遇されている」と答えた割合が男性よりも高い。80 歳代では「平等である」が男性で高く（46.2%）、女性・男性ともにほかの年代と比べ『男性優遇』と答えた割合は低い（順に 52.9%・46.2%）。

経年的にみると、いずれの分野においても『男性優遇』と考える割合が減少する傾向にある一方、「平等である」と考える割合は増加してきており、平等感は徐々に高まりつつある。

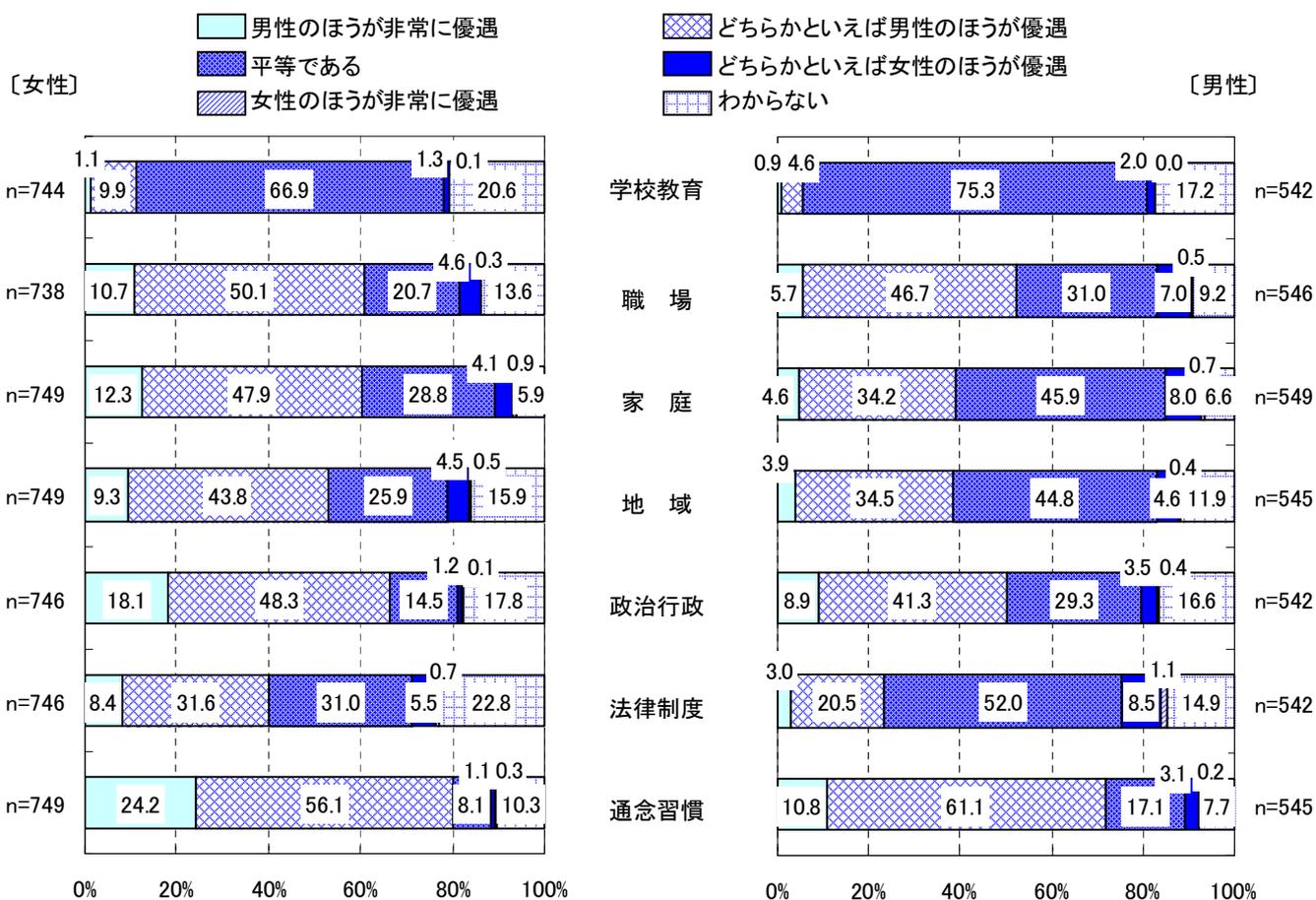
問1 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

- | | | |
|------------|--------------------|----------|
| ① 学校教育で | ② 職場で | ③ 家庭生活上で |
| ④ 町内会や地域で | ⑤ 政治や行政の施策・方針決定の場で | |
| ⑥ 法律や制度の上で | ⑦ 社会通念・習慣やしきたりなどで | |

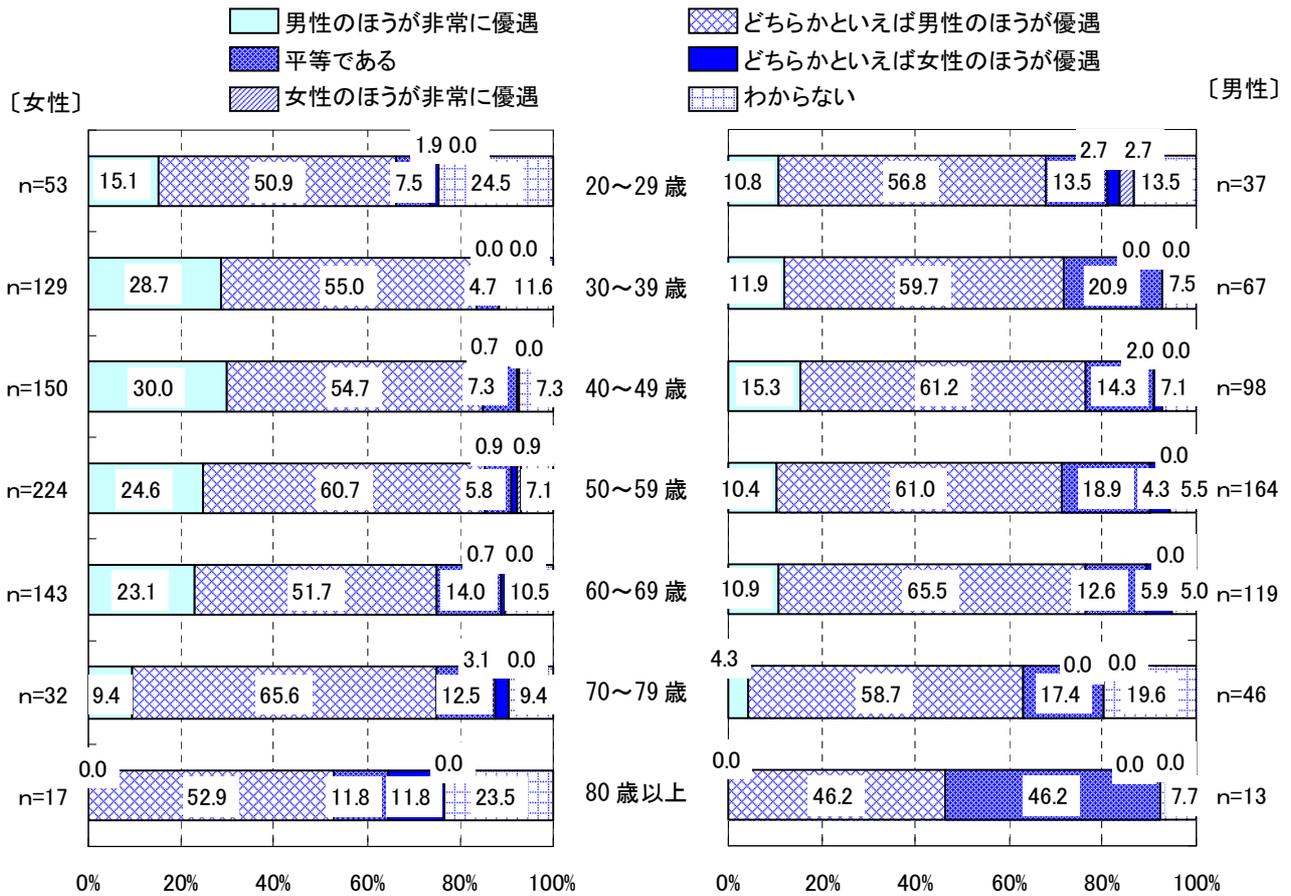
〔図1-1 男女の地位の平等感（全体）〕



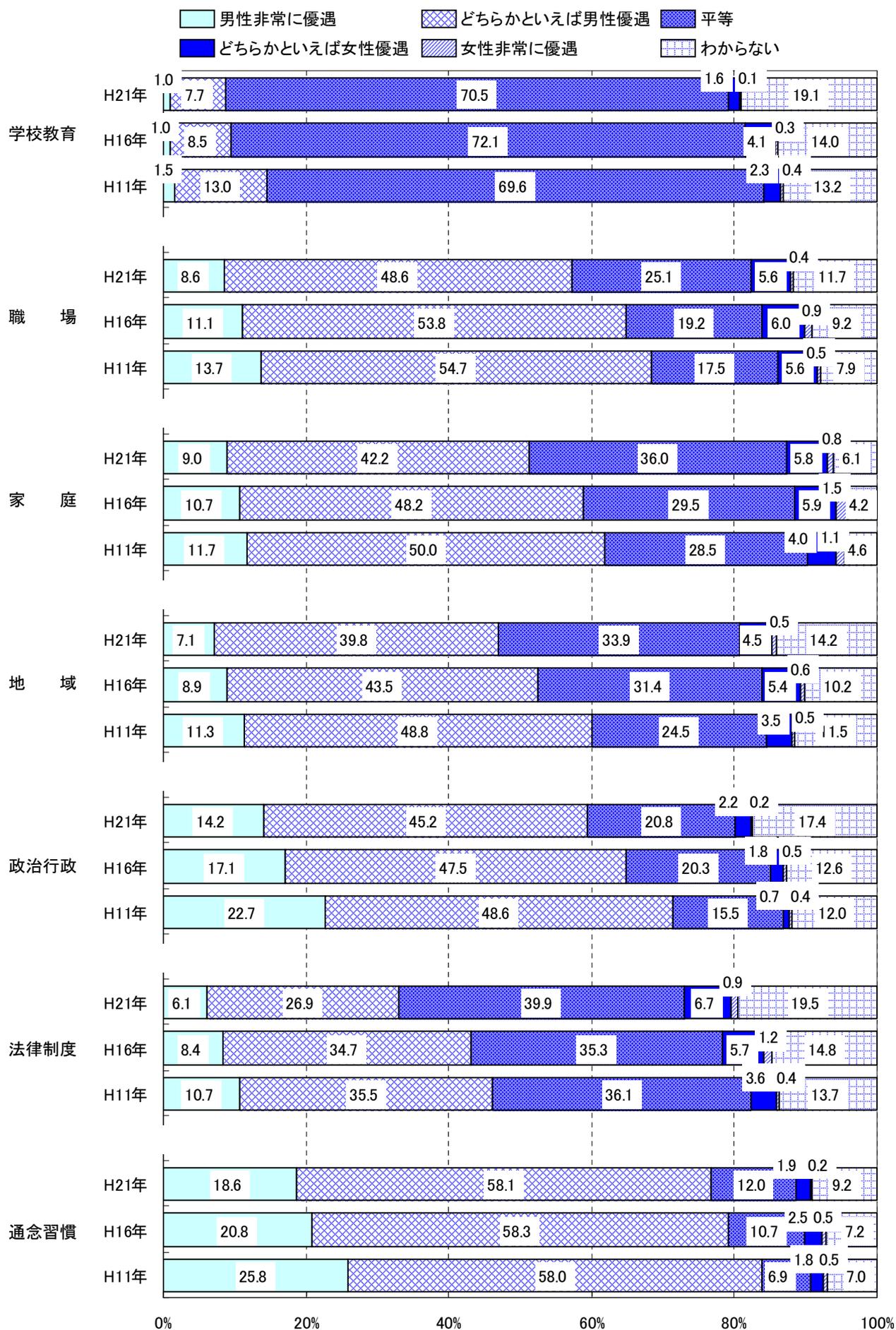
〔図1-2 男女の地位の平等感（性別）〕



〔図1-3 男女の地位の平等感 通念習慣（年代別）〕

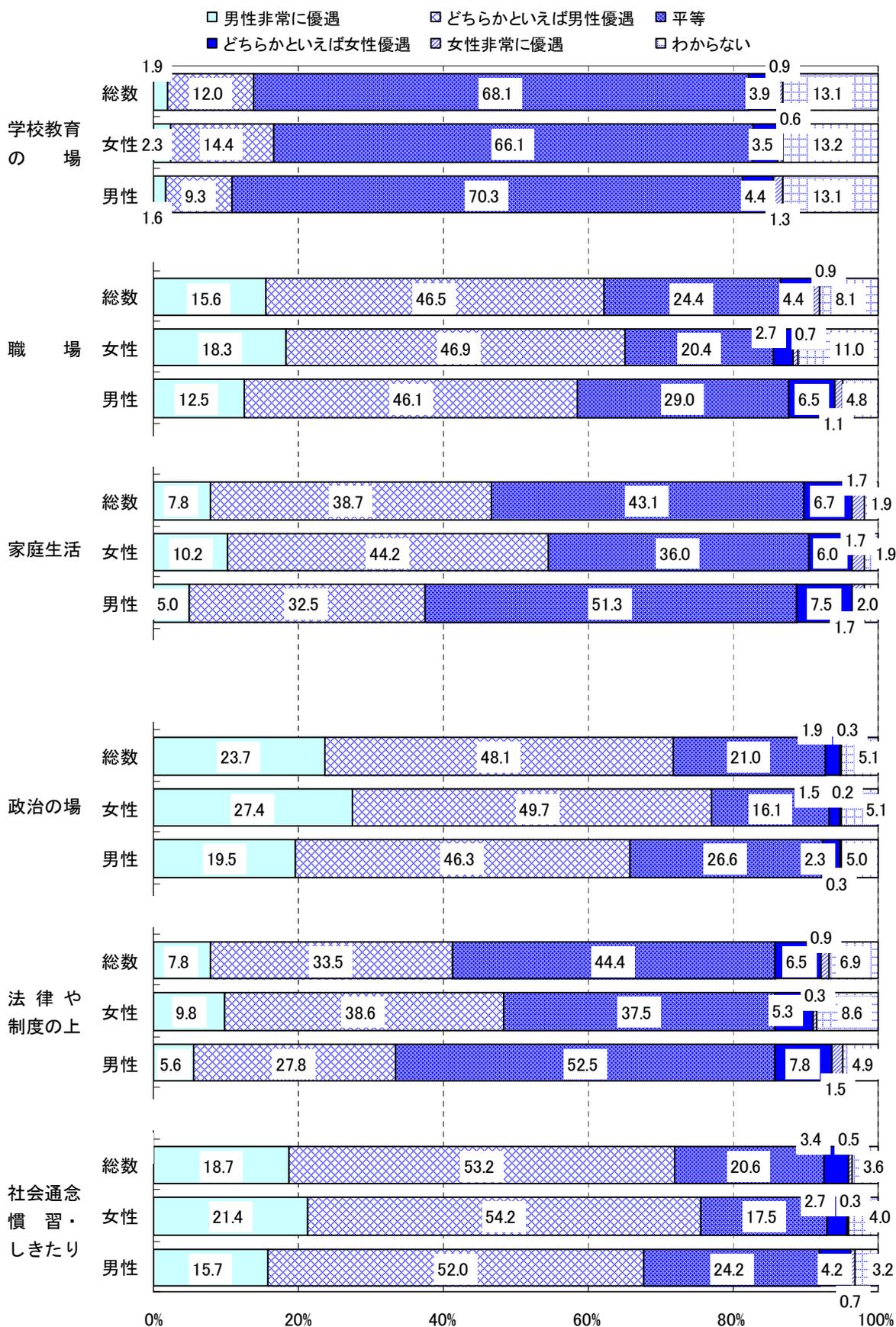


〔図1-4 男女の地位の平等感（過去の調査との比較）〕



〔参考 世論調査の結果〕

男女の地位の平等感



出典：「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府・平成21年10月）

2 男女が平等な立場で協力し合っていくために大切なこと

要点

- ◆ 「互いの個性・能力を認め、補い合っている認識を持つ」ことが、男女とも突出して高い。

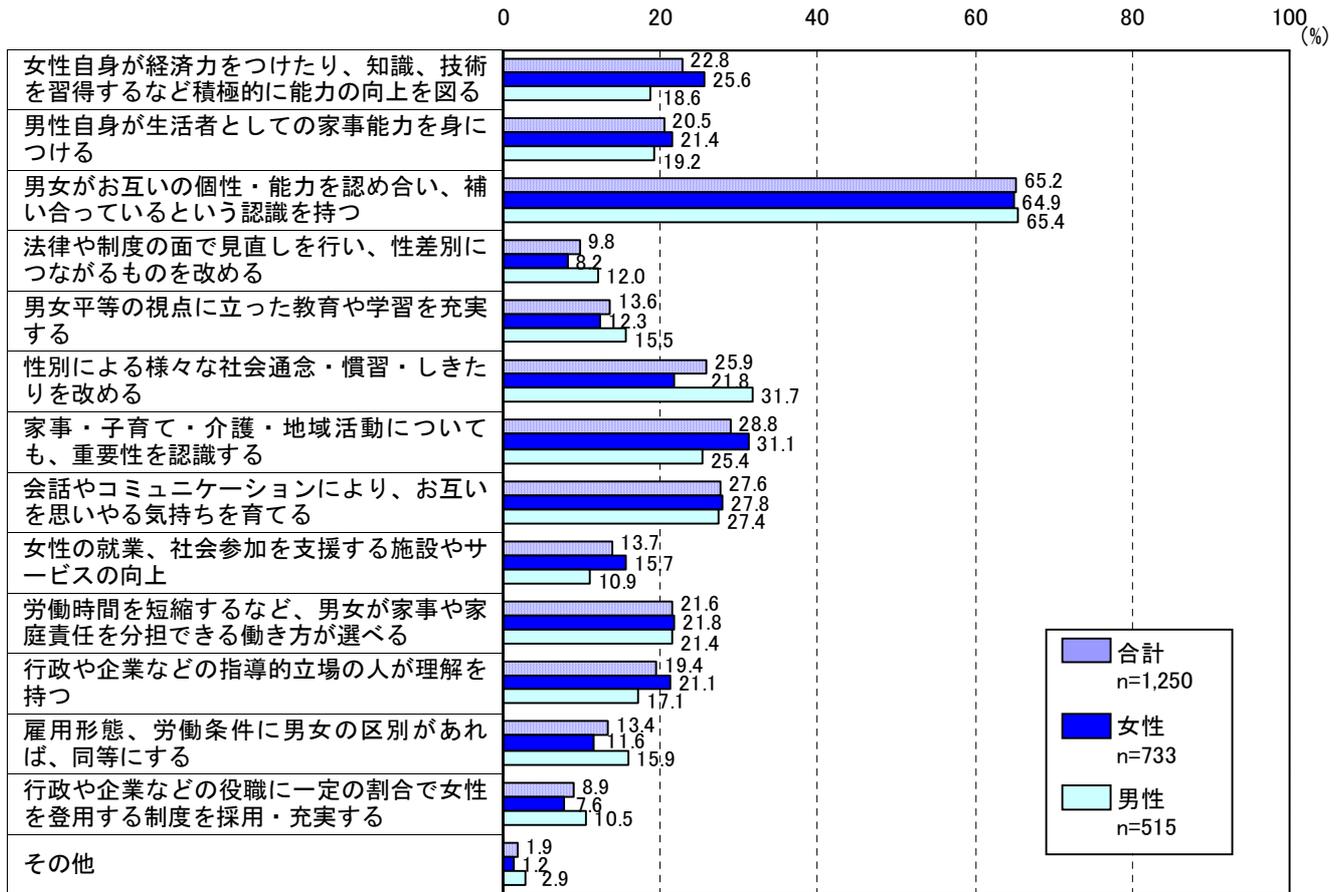
男女が平等な立場で協力し合っていくために大切だと思うことについては、「男女がお互いの個性・能力を認め合い、補い合っているという認識を持つ」（65.2%）が突出し、次いで「家事・子育て・介護・地域活動についても、重要性を認識する」（28.8%）、「会話やコミュニケーションにより、お互いを思いやる気持ちを育てる」（27.6%）、「性別による様々な社会通念・慣習・しきたりを改める」（25.9%）と続くが、「行政や企業などの役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する」（8.9%）、「法律や制度の面で見直しを行い、性差別につながるものを改める」（9.8%）など、制度的なものについては回答割合が低い。

性別では、「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る」「家事・子育て・介護・地域活動についても、重要性を認識する」で女性（順に25.6%、31.1%）が男性（順に18.6%、25.4%）よりも高く、「性別による様々な社会通念・慣習・しきたりを改める」については男性（31.7%）が女性（21.8%）よりも高い。

年代別で見ると、「男女がお互いの個性・能力を認め合い、補い合っているという認識を持つ」はどの年代でも最も支持が高い。70歳代以上では女性・男性ともに「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る」と答えた割合が高く、「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方が選べる」で20歳代の男性（37.1%）と30歳代の女性（32.0%）がほかの年代と比べて若干高い。

問2 あなたは、男女が平等な立場で協力しあっていくためには、どんなことが大切だと思いますか。（○は3つまで）

〔図2-1 協力し合っていくのに大切なこと（全体・性別）〕



〔表2-1 協力し合っていくのに大切なこと（年代別）〕

	n	大切なこと														
		女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど積極的に能力の向上を図る	男性自身が生活者としての家事能力を身につける	男女がお互いの個性・能力を認め合い、補い合っているという認識を持つ	法律や制度の面で見直しを行い、性差別につながるものを改める	男女平等の視点に立った教育や学習を充実する	性別による様々な社会通念・慣習・しきたりを改める	家事・子育て・介護・地域活動についても、重要性を認識する	会話やコミュニケーションにより、お互いを思いやる気持ちを育てる	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの向上	労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方が選べる	行政や企業などの指導的立場の人が理解を持つ	雇用形態、労働条件に男女の区別があれば、同等にする	行政や企業などの役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実する	その他	
【女性】	合計	732	25.7	21.4	64.9	8.2	12.2	21.9	31.1	27.9	15.6	21.9	21.2	11.6	7.7	1.2
	20～29歳	53	15.1	18.9	67.9	7.5	9.4	17.0	18.9	34.0	20.8	28.3	20.8	9.4	11.3	0.0
	30～39歳	125	16.8	27.2	60.0	11.2	7.2	22.4	29.6	26.4	19.2	32.0	21.6	10.4	3.2	1.6
	40～49歳	143	23.8	24.5	62.2	5.6	14.0	21.7	29.4	30.8	16.1	21.7	20.3	11.9	6.3	0.0
	50～59歳	217	27.2	21.7	66.4	9.2	12.0	25.3	32.7	25.3	15.7	16.1	24.0	15.2	6.0	0.9
	60～69歳	141	29.1	16.3	63.8	8.5	16.3	20.6	37.6	26.2	14.2	22.0	19.1	9.9	12.8	2.8
	70～79歳	36	44.4	19.4	77.8	2.8	16.7	13.9	30.6	30.6	2.8	16.7	22.2	5.6	8.3	0.0
	80歳以上	17	52.9	5.9	76.5	5.9	0.0	17.6	23.5	35.3	5.9	11.8	5.9	5.9	17.6	5.9
【男性】	合計	514	18.5	19.3	65.6	12.1	15.6	31.7	25.5	27.2	10.9	21.2	17.1	16.0	10.5	2.9
	20～29歳	35	5.7	11.4	68.6	8.6	8.6	25.7	25.7	40.0	11.4	37.1	20.0	17.1	2.9	5.7
	30～39歳	63	17.5	22.2	54.0	14.3	6.3	28.6	28.6	30.2	11.1	25.4	17.5	12.7	7.9	4.8
	40～49歳	96	13.5	20.8	64.6	12.5	13.5	28.1	20.8	26.0	11.5	22.9	16.7	14.6	10.4	4.2
	50～59歳	155	19.4	22.6	65.8	12.9	13.5	35.5	27.1	24.5	12.9	19.4	16.8	20.0	9.7	1.3
	60～69歳	115	17.4	14.8	69.6	10.4	20.0	30.4	29.6	27.0	7.8	16.5	14.8	14.8	15.7	2.6
	70～79歳	38	34.2	13.2	68.4	10.5	31.6	36.8	13.2	23.7	7.9	15.8	21.1	13.2	7.9	0.0
	80歳以上	12	50.0	33.3	75.0	16.7	33.3	41.7	25.0	33.3	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	8.3

3 性別によって男女の役割を決める考え方について

要点

- ◆ 賛成群と反対群の割合はほぼ同じ。
- ◆ 女性では反対群が賛成群を上回り、男性では賛成群が反対群を上回っている。
- ◆ 概ね、年代層が上がるとともに賛成群の割合が増している。
- ◆ 短期的には大きな変化は見られないが、長期的には賛成群が減少し反対群が増加してきている。

“男性は外で働き、女性は家庭を守る”という性によって役割を決める考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成群』（41.6%）と「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対群』（44.8%）がほぼ同じ回答割合である。

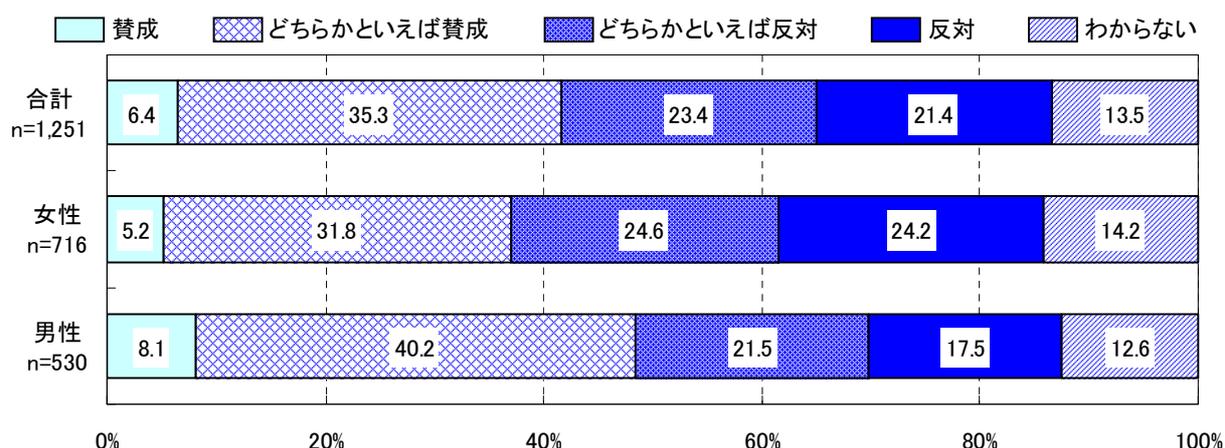
性別では、女性では『反対群』（48.7%）が『賛成群』（37.0%）を 11.7 ポイント上回り、男性では『賛成群』（48.3%）が『反対群』（39.1%）を 9.2 ポイント上回っている。

年代別では、概ね年代層が上がるとともに『賛成群』の割合が増す傾向が見られ、『賛成群』の割合が低いのは 20 歳代の男性（28.6%）や 20～40 歳代の女性（順に、35.3%、33.9%、31.0%）であり、40～60 歳代では男性が女性よりも『賛成群』の割合が高い。また、女性では全年代層で『反対群』が 40%を超えている。

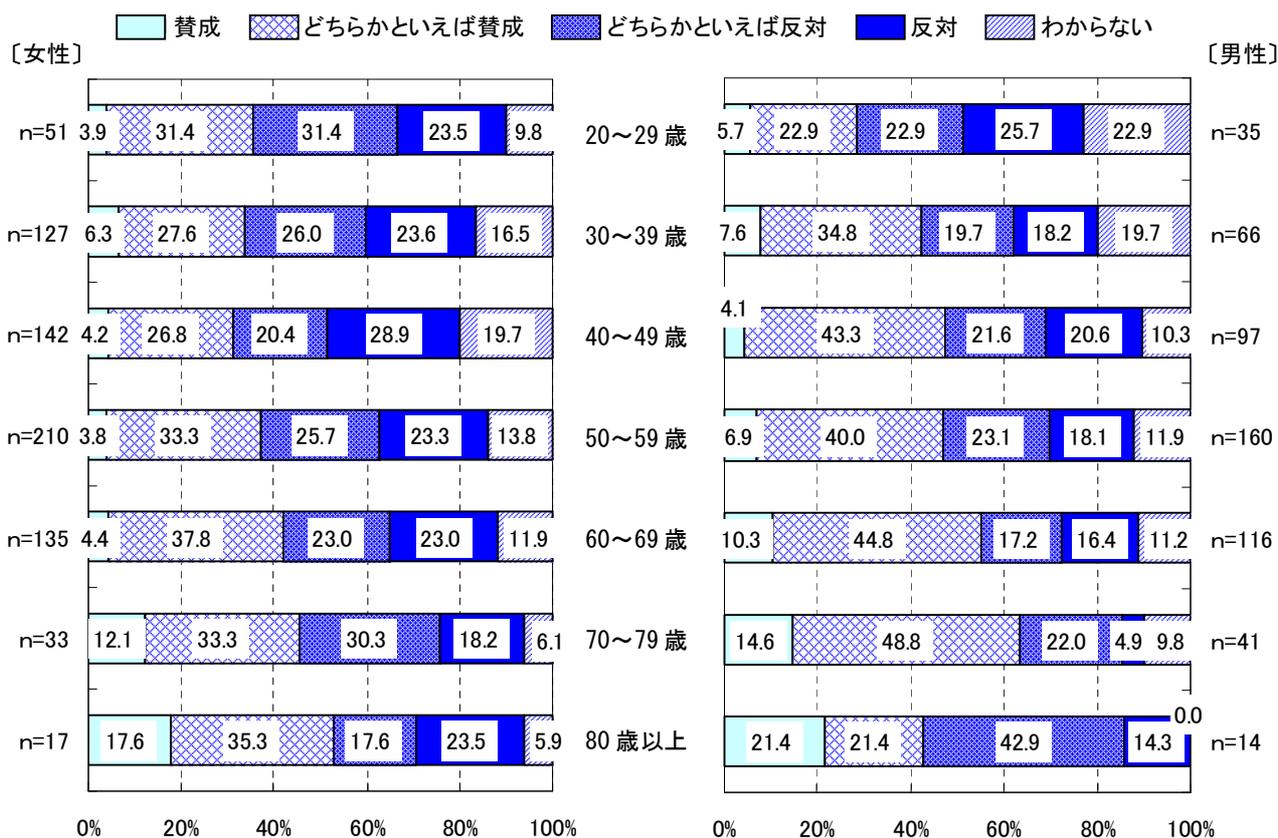
経年的にみると、短期的には大きな変化は見られないが、長期的には『賛成群』が減少し『反対群』が増加してきている。

問3 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

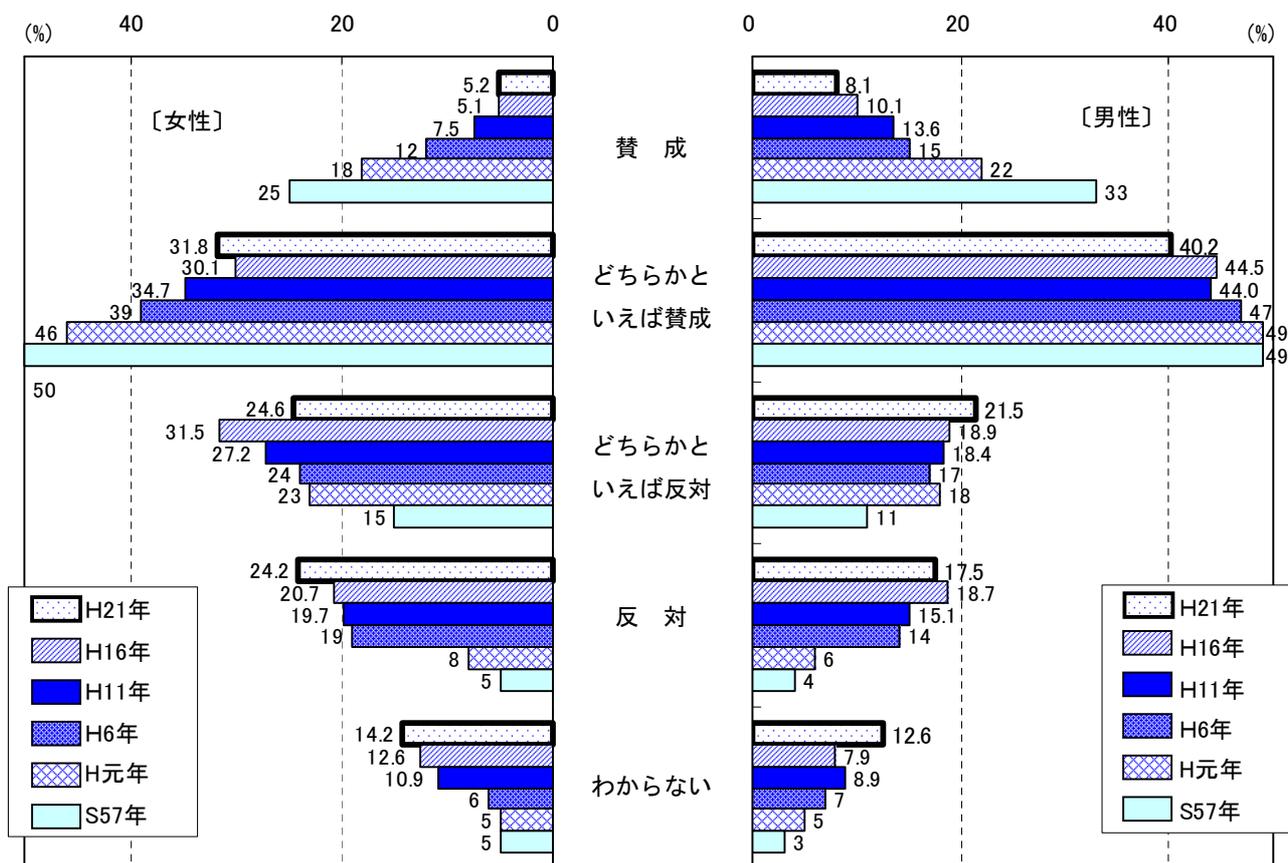
〔図3-1 男女の役割を決める考え方（全体・性別）〕



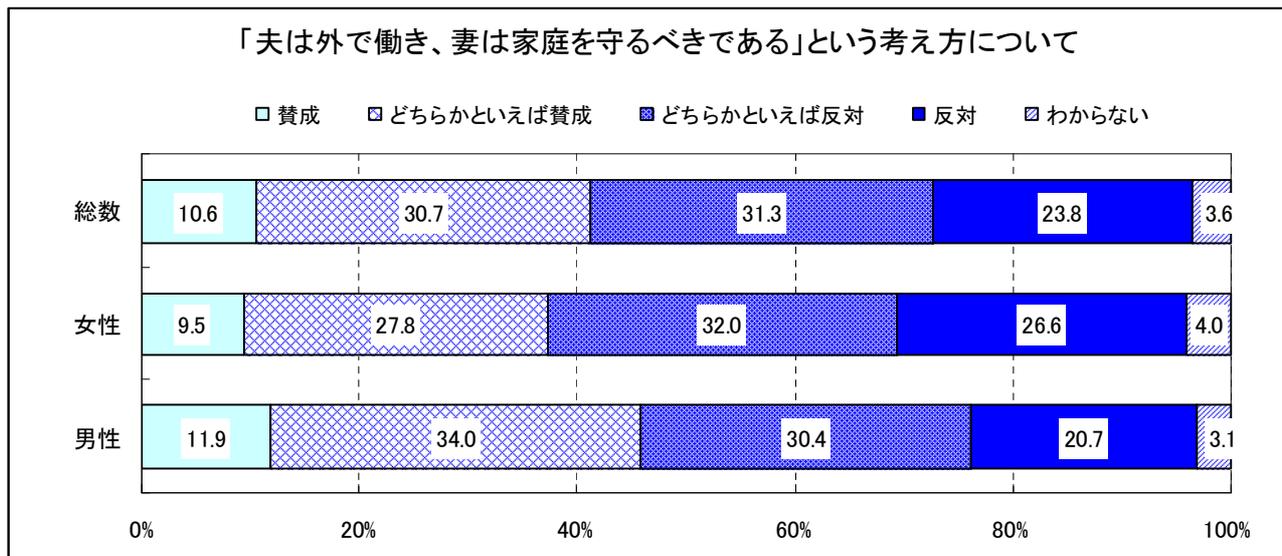
〔図3-2 男女の役割を決める考え方（年代別）〕



〔図3-3 男女の役割を決める考え方（過去の調査との比較）〕



〔参考 世論調査の結果〕



出典：「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府・平成21年10月）

4 家庭の仕事の分担について

【家庭の仕事の分担状況】

要点

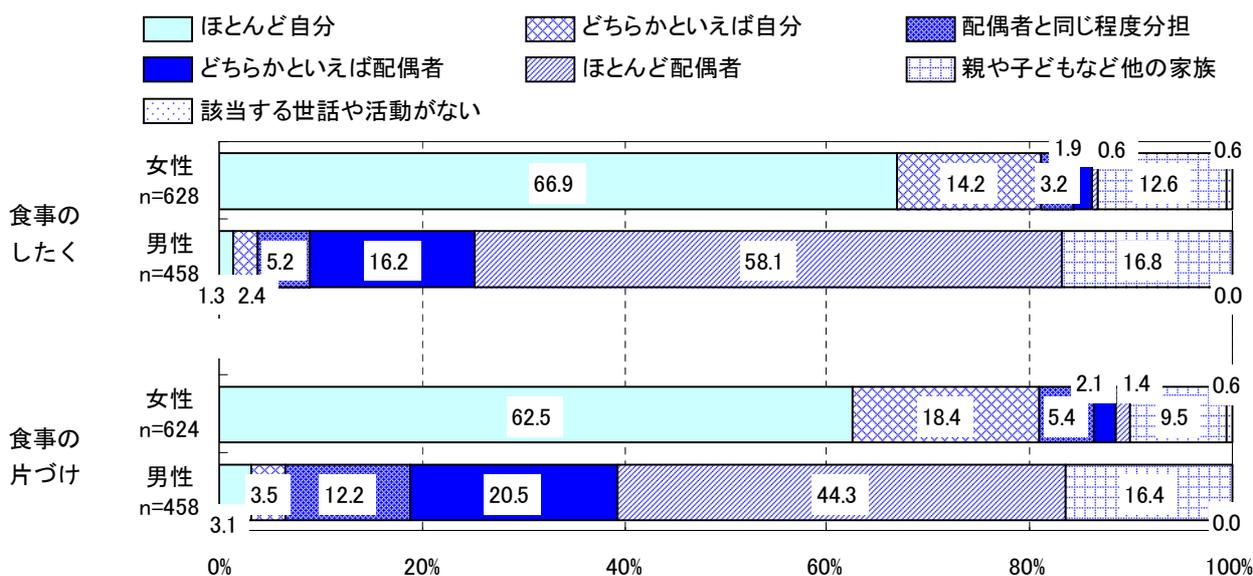
- ◆ 「地域活動、町内会」を除き、女性が大半を担っている。

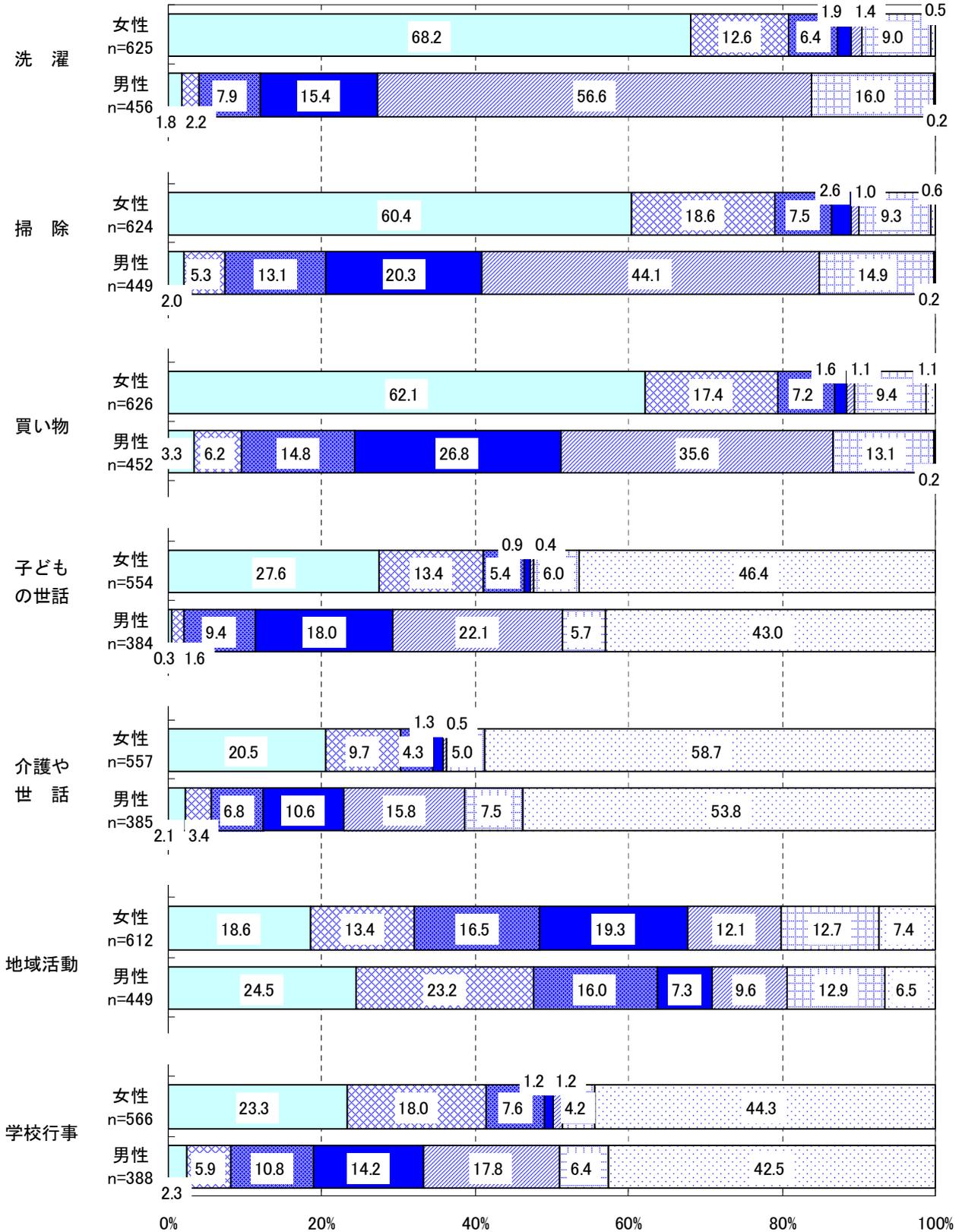
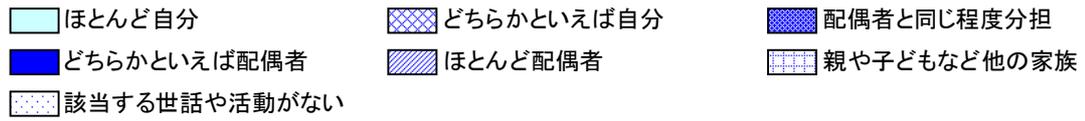
単身世帯以外の人に家庭での仕事を誰が分担しているかを聞いたところ、【地域の活動、自治会・町内会】を除く各仕事において、女性側からは「ほとんど自分」か「どちらかといえば自分」、男性側からは「どちらかといえば配偶者」か「ほとんど配偶者」と答えた割合が高い。また、「配偶者と同じ程度分担」の回答割合は、【日常の買い物】【食事の片づけ】【掃除】などで男性が女性よりも高く、認識にやや違いが見られる。

問4 単身世帯以外のかたにおたずねします。次のような家庭の仕事は、どなたが担当されていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

- ① 食事のしたく ② 食事の片づけ ③ 洗濯
- ④ 掃除 ⑤ 日常の買い物 ⑥ 小さい子どもの世話
- ⑦ 介護の必要な高齢者・病人の世話 ⑧ 地域の活動、自治会・町内会
- ⑨ 子どもの学校の活動・行事

〔図4-1 家庭の仕事の分担状況（性別）〕





【分担の経緯と満足度】

要点

- ◆ 分担の理由は「自分がやるのが自然だから」が男女ともに多いが、女性の4割が現状に満足している一方で3人に1人が不満を感じている。一方、男性の7割は満足しており、不満と感じる人は少ない。

いずれかの仕事で「ほとんど自分」または「どちらかといえば自分」と答えた人に対し、現在の分担がどのように決まったのかについて聞いたところ、女性・男性ともに「自分がやるのが自然だから」（順に 40.4%・47.9%）が多くを占めた。女性では「家族がしない（できない）から」（26.4%）が男性（9.3%）よりも 17.1 ポイント高く、「自分でしたい（できる）から」（12.3%）を 14.1 ポイント上回っている。男性では「家族での話し合いで」（14.8%）が、女性（4.5%）よりも高い。

また、「その他」の記載欄には、『女性（嫁・母）がするのが当然というしきたりで』（女性）など、慣習を理由に挙げたものや、『家族がすると上手にできず、かえって二度手間になる』（女性）といったものもあった。

さらに、現在の分担に満足しているかどうかについて聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足群』の割合は、男性の 69.2%、女性の 40.4%であるが、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満群』では、女性には現状に不満を感じている人も多く（35.1%）、男性は少ない（5.4%）。

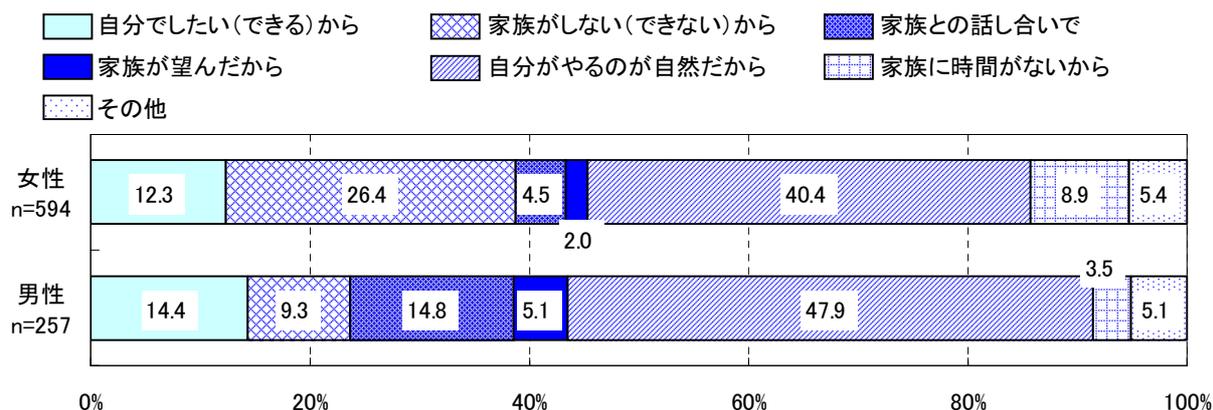
分担の経緯と満足度のクロス集計をみると、女性・男性ともに『満足群』が高いのは、分担経緯が「自分でできる（したい）から」（順に 69.4%・75.7%）、「家族との話し合いで」（同 55.6%・71.1%）の場合で、「自分がやるのが自然だから」では男性の『満足群』が 73.2%であるのに比べ、女性は 40.7%で 32.5 ポイント低い。また、女性で「家族がしない（できない）から」と答えた人は『不満群』の割合が高い（72.9%）。

問 4 - 1 この分担はどのように決まりましたか。総合して、最も近いものを選んでください。（○は1つだけ）

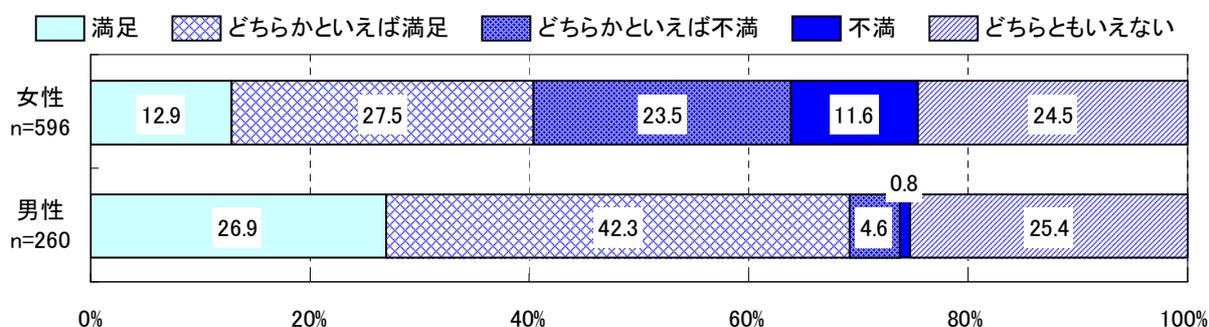
問 4 - 2 では、現在の分担を全体的にみて、あなたは満足していますか。（○は1つだけ）

※問 4 - 1, 2は問 4で1つでも「ほとんど自分」「どちらかといえば自分」を選択したかたのみ回答

〔図 4-2 家庭の仕事の分担経緯（性別）〕



〔図 4-3 家庭の仕事の分担に係る満足度（性別）〕



〔表 4-1 家庭の仕事の分担経緯 × 満足度〕

	n	問4-2 現在の分担の満足度					
		満足	満とど 足いち えら ばか	不とど 満いち えら ばか	不満	いもど いち えら なと	
分担 の 経 緯 【 女 性 】	合計	587	12.8	27.8	23.7	11.6	24.2
	自分でしたい(できる)から	72	30.6	38.9	4.2	0.0	26.4
	家族がしない(できない)から	155	0.0	7.1	40.0	32.9	20.0
	家族との話し合いで	27	11.1	44.4	18.5	0.0	25.9
	家族が望んだから	12	33.3	8.3	25.0	16.7	16.7
	自分がやるのが自然だから	236	15.3	38.1	18.2	2.1	26.3
	家族に時間がないから	53	11.3	32.1	24.5	5.7	26.4
	その他	32	12.5	12.5	31.3	21.9	21.9
分担 の 経 緯 【 男 性 】	合計	256	27.0	42.2	4.7	0.8	25.4
	自分でしたい(できる)から	37	35.1	40.5	5.4	2.7	16.2
	家族がしない(できない)から	24	12.5	29.2	20.8	4.2	33.3
	家族との話し合いで	38	18.4	52.6	0.0	0.0	28.9
	家族が望んだから	12	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
	自分がやるのが自然だから	123	29.3	43.9	2.4	0.0	24.4
	家族に時間がないから	9	11.1	55.6	22.2	0.0	11.1
	その他	13	38.5	23.1	0.0	0.0	38.5

5 仕事と生活の調和に関する希望と現実

要点

- ◆ 理想としている生活と現状にはギャップが見られる。
- ◆ 全体、男女ともに約3割の人が仕事と生活の調和を望んでいるのに対し、実現している人は1割に満たない。
- ◆ 現実では、男性が「仕事」、女性が「仕事」及び「家庭生活」を優先している割合が高い。
- ◆ 希望と現実が一致している人は4割程度で、女性の方がやや低い。

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味など）の優先度について、希望に最も近いものを聞いたところ、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたい」（30.2%）、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（25.3%）の順に回答割合が高い。

現実（現状）についても併せて聞いたところ、こちらは「「仕事」を優先している」（29.5%）が最も高く、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスがとれている」（8.3%）が低いなど、希望と現実の間には少なからずギャップが見られる。

性別でみると、現実では、男性は「「仕事」を優先している」割合が最も高く（38.6%）、女性は「「家庭生活」を優先している」（27.2%）、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」（24.0%）、「「家庭生活」を優先している」（23.0%）の3つに分かれている。

年代別でみると、現実では、30～50歳代の男性で「「仕事」を優先している」と答えた割合が高い（順に64.7%、44.9%、47.8%）のが際立つ。女性では、30歳代で「「家庭生活」を優先している」（39.5%）が「「仕事」を優先している」（25.6%）を上回り、40歳代では33.3%が「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えている。

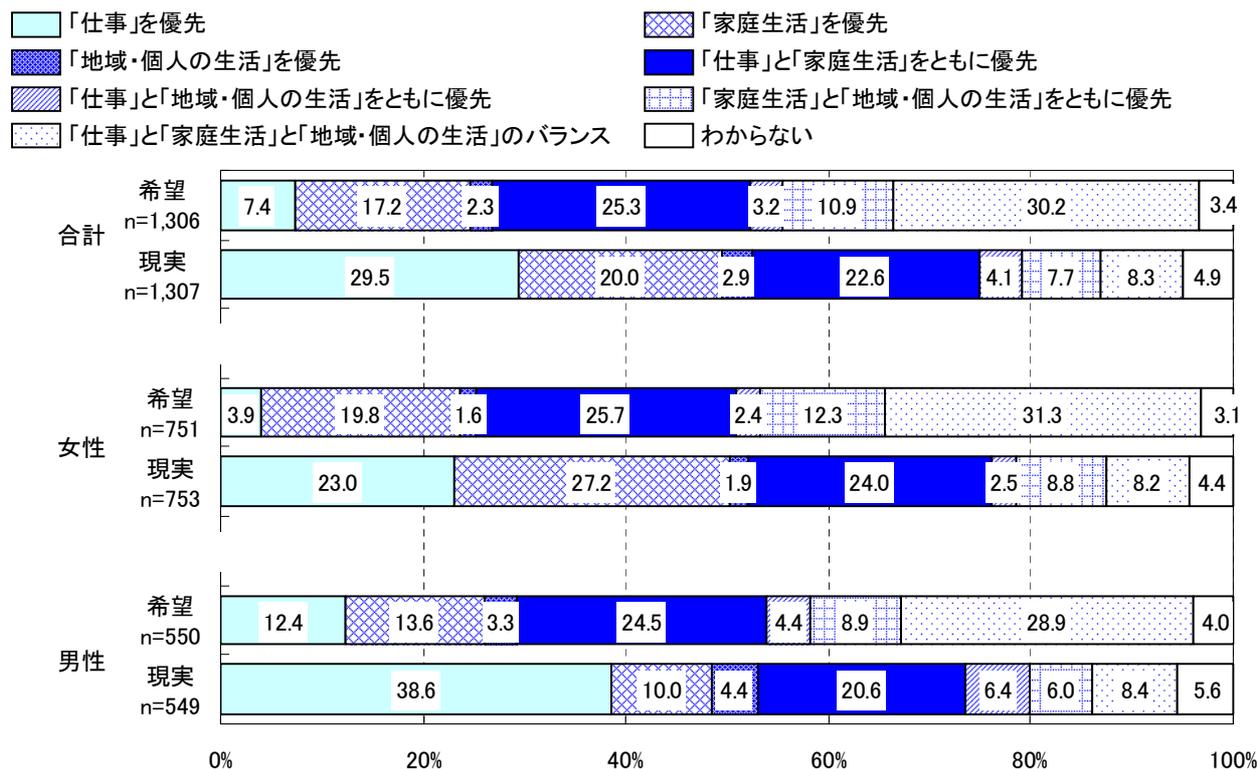
また、希望と現実のクロス集計をみると、希望と現実が一致している人の割合は女性37.7%・男性42.5%で、女性の方がやや低い。希望どおりでない男性の多くが現実では「「仕事」を優先している」と回答しているのに対し、女性は「「仕事」を優先している」「「家庭生活」を優先している」など回答が分散している。

問5 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

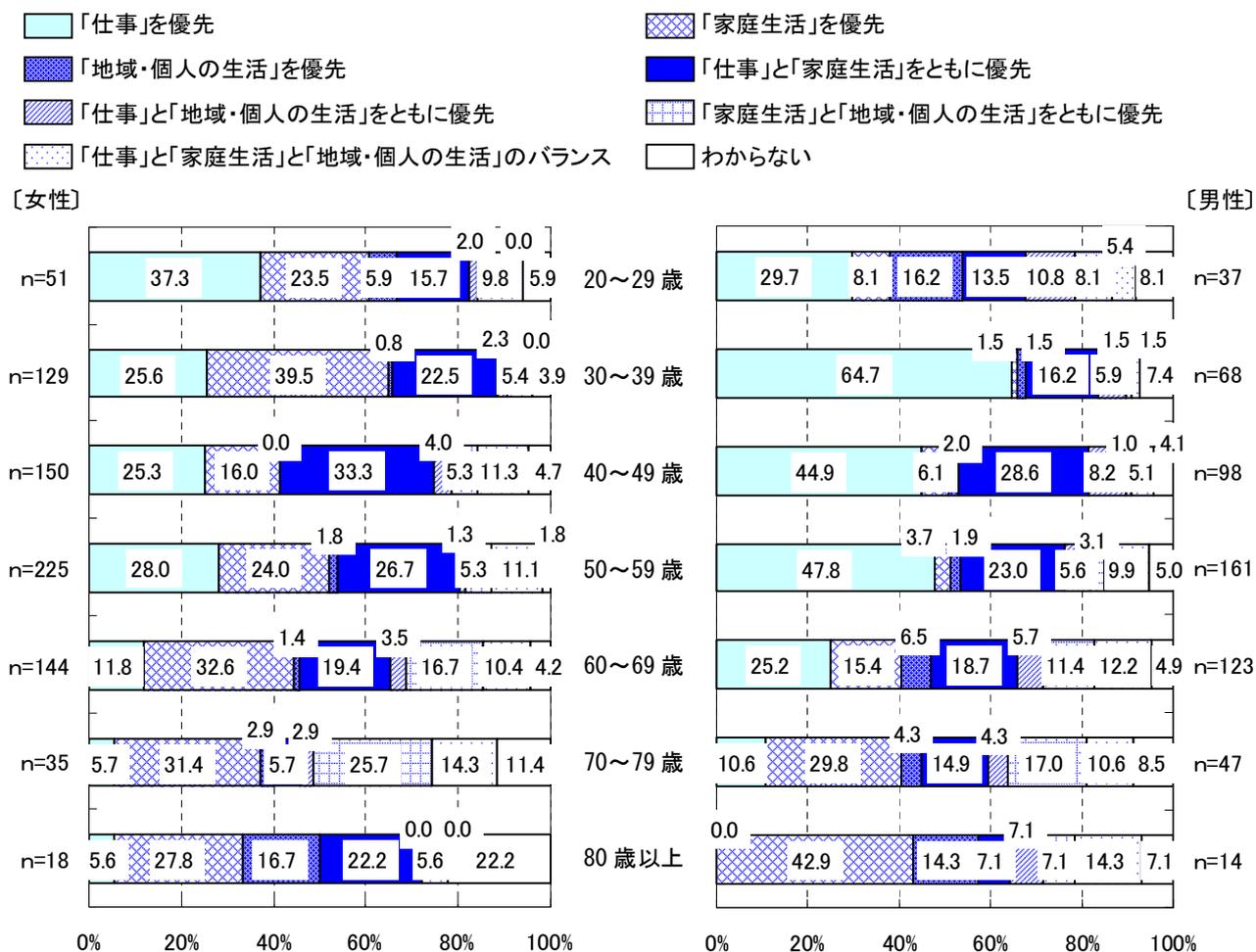
(A) まず、あなたの希望に最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

(B) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

〔図5-1 仕事と生活の調和に関する希望と現実（全体・性別）〕



〔図5-2 仕事と生活の調和に関する現実（年代別）〕



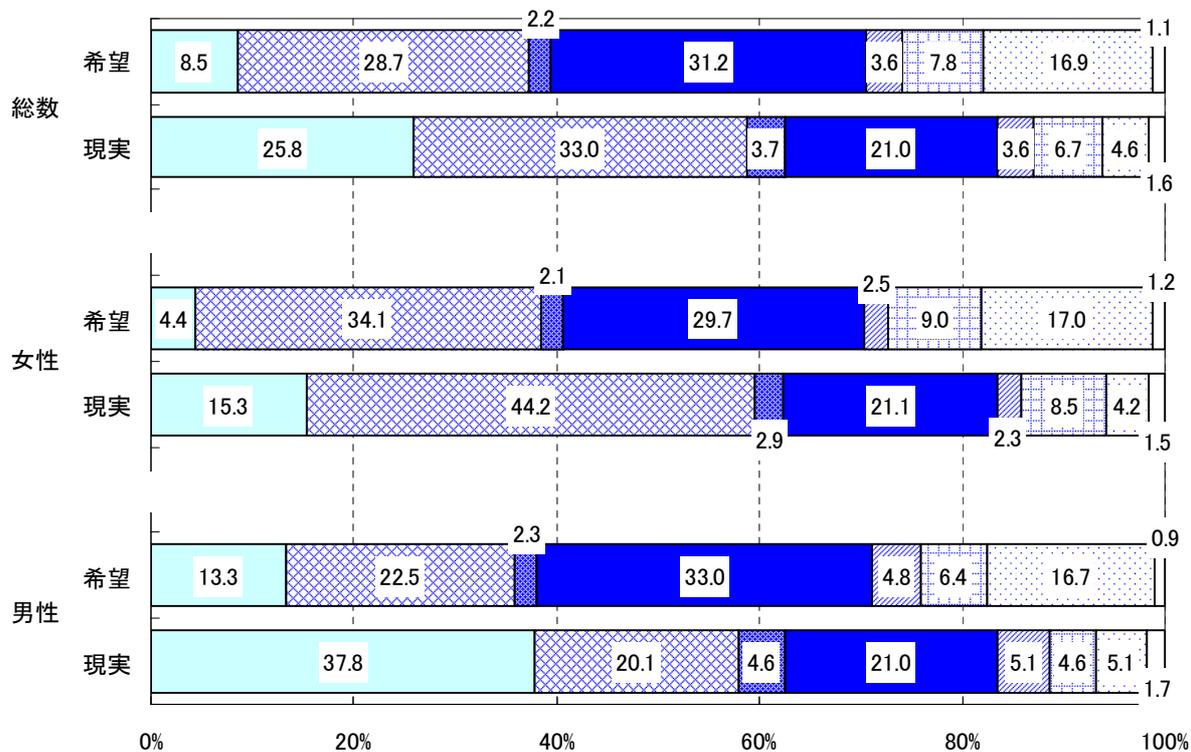
[表5-1 仕事と生活の調和に関する希望×現実]

		n	仕事と生活の調和に関する (B) 現実(現状)							
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」と「家庭生活」のバランスをとっている	わからない
(A) 希望 【女性】	合計	749	23.1	27.2	1.9	24.0	2.4	8.8	8.1	4.4
	「仕事」を優先したい	29	58.6	17.2	3.4	10.3	3.4	0.0	3.4	3.4
	「家庭生活」を優先したい	149	14.1	57.7	0.0	16.8	2.0	3.4	4.0	2.0
	「地域・個人の生活」を優先したい	12	8.3	33.3	33.3	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	192	32.8	15.1	0.0	46.9	0.0	0.5	2.6	2.1
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	18	33.3	27.8	5.6	5.6	11.1	5.6	11.1	0.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	92	9.8	29.3	3.3	7.6	1.1	43.5	3.3	2.2
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたい	234	21.4	17.9	2.1	23.1	4.3	7.7	18.4	5.1
	わからない	23	26.1	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.8
(A) 希望 【男性】	合計	546	38.6	10.1	4.4	20.7	6.4	6.0	8.2	5.5
	「仕事」を優先したい	67	86.6	7.5	0.0	3.0	1.5	0.0	0.0	1.5
	「家庭生活」を優先したい	75	30.7	42.7	6.7	13.3	1.3	0.0	1.3	4.0
	「地域・個人の生活」を優先したい	18	11.1	16.7	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	135	42.2	1.5	0.0	47.4	5.2	1.5	1.5	0.7
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	24	50.0	0.0	8.3	8.3	29.2	0.0	4.2	0.0
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	49	14.3	10.2	8.2	4.1	6.1	49.0	6.1	2.0
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のバランスをとりたい	157	31.8	3.2	1.9	19.7	10.2	4.5	23.6	5.1
	わからない	21	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	71.4
優先内容			「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」と	「地域・個人の生活」と	人と「家庭生活」と	人と「地域・個人の生活」と	計
(再掲)希望と現実が一致		女性	58.6	57.7	33.3	46.9	11.1	43.5	18.4	37.7
		男性	86.6	42.7	55.6	47.4	29.2	49.0	23.6	42.5

[参考 世論調査の結果]

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方

- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに
- わからない



出典：「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府・平成21年10月）

6 男性が女性とともに家事等に参加するために必要なこと

要点

- ◆ 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が性・年代を問わず高い。
- ◆ 20～40 歳代で「労働時間の短縮や休暇取得」の割合が高く、男女ともに 30 歳代が最も高い。

男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこととしては、「夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる」（54.8%）、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」（44.9%）、「労働時間の短縮や休暇を取得することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」（38.8%）の順に回答割合が高い。

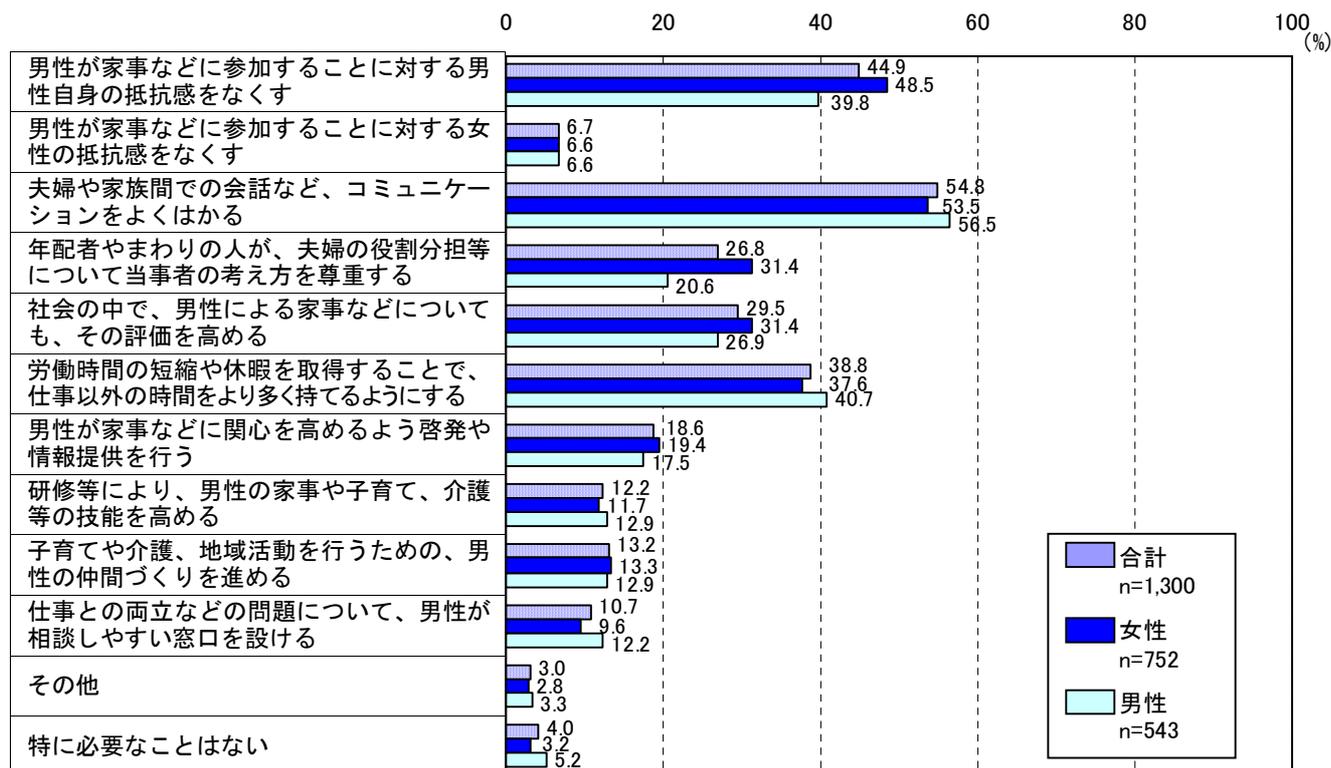
性別では、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する」と「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」で女性（順に 31.4%、48.5%）が男性（順に 20.6%、39.8%）よりも高いが、それ以外の選択肢では性別で大きな違いは見られない。

年代別でみると、「夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる」が女性・男性ともに全年代層で選ばれている。「労働時間の短縮や休暇を取得することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」では 20～40 歳代で回答割合が高く、特に 30 歳代で女性・男性ともに最も高い（順に 55.1%・55.2%）。「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」では 30 歳代の女性（33.9%）、40 歳代の男性（26.8%）で若干低い。

また、「その他」の記載欄には『相手を思いやることを心がければよい』『男、女とこだわりすぎ』（女性）、『生活に“ゆとり”が必要』（男性）などの記述があった。

問6 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

〔図6-1 男性が家事等へ参加するのに必要なこと（全体・性別）〕



〔表6-1 男性が家事等へ参加するのに必要なこと（年代別）〕

	n	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間での会話など、コミュニケーションをよくはかる	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する	社会の中で、男性による家事などについても、その評価を高める	労働時間の短縮や休暇を取得することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める	子育てや介護、地域活動を行うための、男性の仲間づくりを進める	仕事との両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	その他	特に必要なことはない	
【女性】	合計	751	48.5	6.7	53.5	31.4	31.3	37.5	19.4	11.7	13.3	9.6	2.8	3.2
	20~29歳	52	53.8	7.7	53.8	28.8	25.0	46.2	11.5	7.7	15.4	13.5	0.0	1.9
	30~39歳	127	33.9	5.5	48.8	29.1	36.2	55.1	12.6	7.9	11.8	6.3	3.9	3.1
	40~49歳	148	52.7	8.1	50.7	40.5	27.7	42.6	18.9	9.5	8.8	4.1	2.0	3.4
	50~59歳	224	50.0	6.3	57.6	28.1	33.0	34.8	21.9	11.6	14.7	11.2	3.6	1.8
	60~69歳	146	56.8	5.5	52.1	30.8	32.2	21.2	26.7	15.1	17.1	13.0	1.4	2.7
	70~79歳	37	32.4	8.1	56.8	24.3	29.7	35.1	13.5	18.9	13.5	16.2	8.1	10.8
	80歳以上	17	47.1	11.8	64.7	41.2	17.6	17.6	17.6	29.4	5.9	5.9	0.0	11.8
【男性】	合計	542	39.9	6.6	56.5	20.5	26.9	40.6	17.5	12.9	12.9	12.2	3.3	5.2
	20~29歳	37	37.8	5.4	59.5	29.7	24.3	51.4	18.9	8.1	8.1	10.8	2.7	0.0
	30~39歳	67	38.8	3.0	52.2	20.9	32.8	55.2	7.5	6.0	14.9	19.4	6.0	3.0
	40~49歳	97	26.8	8.2	51.5	15.5	22.7	50.5	18.6	11.3	17.5	9.3	5.2	4.1
	50~59歳	163	41.7	7.4	55.2	19.6	29.4	44.8	19.6	14.1	11.0	13.5	4.3	4.9
	60~69歳	119	44.5	5.9	59.7	21.0	26.9	27.7	17.6	17.6	16.8	10.9	0.8	7.6
	70~79歳	46	43.5	6.5	69.6	23.9	19.6	17.4	19.6	15.2	4.3	8.7	0.0	8.7
	80歳以上	13	69.2	15.4	46.2	23.1	30.8	7.7	23.1	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7

7 子育て支援に期待すること

要点

- ◆ 「病児保育」や「病後児保育」を筆頭とした仕事と子育ての両立を支援する各種保育制度の充実に期待が集まっている。
- ◆ 保育制度以外には「悩みを相談する場」「遊ばせる場や機会」の割合が高い。

子育て支援にどのようなことを期待するかについては、「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」」（48.3%）と答えた割合が最も高く、次いで「残業など急な予定変更があったときの「延長保育」や「休日保育」」（42.3%）、「親の働き方にあわせた「一時預かり」や「夜間保育」」（40.0%）が続き、仕事と子育ての両立を支援する各種『保育制度の充実』に期待が集まっている。『保育制度の充実』以外では「親の不安や悩みを相談する場」（24.2%）、「子どもを遊ばせる場や機会の充実」（22.6%）の回答割合が高い。

性別では、女性で「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」」が過半数に達して（52.9%）おり、男性（41.8%）よりも11.1ポイント高い。ほかには「親の不安や悩みを相談する場」（26.5%）、「親のリフレッシュの場や機会の提供」（16.5%）が男性（順に20.7%、11.0%）よりも高い。また、男性では「親の働き方にあわせた「一時預かり」や「夜間保育」」（44.0%）が女性（37.3%）よりも高い。

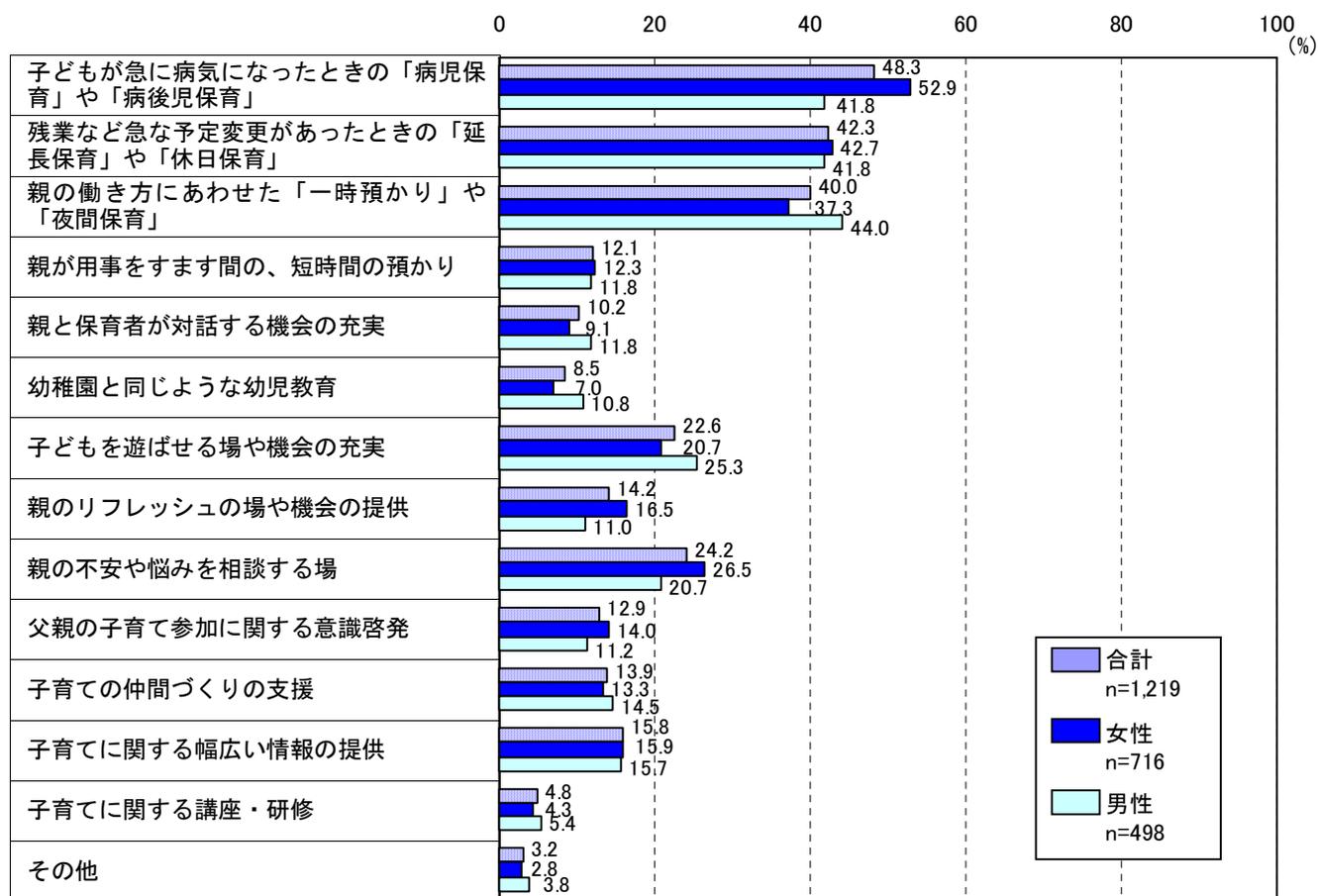
配偶者の状況別では、【未婚である】女性で「子どもが急に病気になったときの「病児保育」や「病後児保育」」の回答割合が高い（65.4%）。

末子の成長段階別でみると、『保育制度の充実』がどの区分でもほぼ同じように支持されているほかには、女性では【小学生】の「親のリフレッシュの場や機会の提供」（38.4%）や【その他】の「親の不安や悩みを相談する場」（33.5%）、男性では【未就学児】の「子どもを遊ばせる場や機会の充実」（38.8%）で回答割合がやや高い。

また、「その他」の記載欄には『仕事優先でなく子育て優先の考え方を社会的に広める』『今の親は甘えている。子育てと言えずぎ』（女性）というものもあった。

問7 あなたは保育サービスを含む子育て支援に、どのようなことを希望しますか。
(○は3つまで)

〔図7-1 子育て支援に期待すること（全体・性別）〕



〔表7-1 子育て支援に期待すること（配偶者の状況別）〕

	n	育な	子ど	保が	残業	間一	親の	の親	機親	児幼	機	子ど	や親	す親	す父	支子	情子	研子	そ
		なつ	ども	があ	業な	一保	の働	が短	親と	会育	教育	会の	ども	機の	親の	親の	援育	報育	修育
【女性】	合計	716	52.9	42.7	37.3	12.3	9.1	7.0	20.7	16.5	26.5	14.0	13.3	15.9	4.3	2.8			
未婚である	81	65.4	49.4	44.4	6.2	9.9	4.9	18.5	11.1	27.2	12.3	19.8	7.4	7.4	0.0				
結婚している	540	50.9	40.6	35.0	13.3	8.7	6.5	21.5	16.9	27.8	15.4	13.0	16.7	3.9	3.5				
結婚していたが 離別・死別した	95	53.7	49.5	44.2	11.6	10.5	11.6	17.9	18.9	18.9	7.4	9.5	18.9	4.2	1.1				
【男性】	合計	497	41.6	41.9	44.1	11.9	11.7	10.9	25.4	11.1	20.7	11.3	14.5	15.5	5.4	3.8			
未婚である	72	44.4	47.2	48.6	13.9	9.7	9.7	26.4	11.1	19.4	6.9	20.8	6.9	6.9	2.8				
結婚している	396	40.2	41.2	42.9	11.4	12.1	11.9	26.0	11.4	20.5	11.6	12.9	16.9	5.1	4.3				
結婚していたが 離別・死別した	29	55.2	37.9	48.3	13.8	10.3	0.0	13.8	6.9	27.6	17.2	20.7	17.2	6.9	0.0				

〔表7-2 子育て支援に期待すること（末子の成長段階別）〕

		n	育な 「つ や」 病後 児保 育に 保	子ど もが 急な 病に 病に 保	保 育に や 「休 日保 育に 長	残 業な ど急 な予 定変 更	間 保 育に 「預 かり 」や 「夜	親 の働 き方 にあ わ せ た	の親 、短 時間 の預 かり	親 と保 育者 が対 話す る	機 会を 充 実	親 と保 育者 が対 話す る	児 幼 稚 園 と 同 じ よ う な 幼	機 会を 充 実	子 ど も を 遊 ば せ る 場 や	親 のレ ジ ッ シ ュ の 場	や 機 会 の 提 供	親 の不 安 や 悩 み を 相 談	す る 意 識 啓 発	父 親 の 子 育 て 参 加 に 関	支 援 の 仲 間 づ くり の	子 育 て に 関 する 幅 広 い	研 修 に 関 する 講 座 ・	子 育 て に 関 する 講 座 ・	そ の 他
【女性】	合計	703	53.1	42.8	37.6	11.9	9.1	7.0	20.6	16.5	26.6	14.2	13.1	15.8	4.3	2.8									
	未就学児	74	52.7	40.5	37.8	18.9	10.8	8.1	29.7	21.6	8.1	9.5	6.8	14.9	1.4	6.8									
	小学生	73	50.7	34.2	28.8	20.5	6.8	4.1	26.0	38.4	15.1	13.7	9.6	8.2	2.7	8.2									
	中学生・高校生	77	49.4	42.9	39.0	9.1	2.6	7.8	15.6	23.4	22.1	14.3	13.0	14.3	2.6	2.6									
	その他	364	50.8	42.6	36.5	9.9	10.7	7.4	19.5	11.8	33.5	16.8	14.6	20.1	4.7	1.4									
	子どもはいない	115	64.3	50.4	45.2	10.4	8.7	6.1	18.3	9.6	27.0	9.6	14.8	8.7	7.0	1.7									
【男性】	合計	493	41.6	42.2	44.2	12.0	11.8	10.8	25.4	11.2	20.7	11.0	14.2	15.6	5.5	3.9									
	未就学児	49	42.9	46.9	38.8	8.2	8.2	20.4	38.8	22.4	14.3	6.1	16.3	8.2	2.0	4.1									
	小学生	43	32.6	48.8	30.2	11.6	2.3	11.6	27.9	11.6	18.6	16.3	7.0	25.6	7.0	2.3									
	中学生・高校生	39	35.9	59.0	46.2	10.3	7.7	7.7	20.5	12.8	17.9	17.9	12.8	10.3	0.0	2.6									
	その他	261	42.9	36.4	46.4	11.9	15.7	10.7	24.9	10.0	20.7	11.9	13.8	18.4	6.5	3.8									
	子どもはいない	101	43.6	45.5	46.5	14.9	8.9	6.9	20.8	7.9	25.7	5.9	17.8	9.9	5.9	5.0									

8 介護支援に期待すること

要点

- ◆ **男女とも過半数の人に「仕事が続けられるような柔軟な介護サービス」が期待されている。**
- ◆ **介護サービスに係る情報提供やアドバイスへのニーズも高い。**
- ◆ **仕事と介護を両立するうえで、勤務・休業制度といった労働環境の整備よりも柔軟なサービスの提供への期待が高い。**

介護支援にどのようなことを期待するかについては、「介護をしながらでも仕事が続けられるような柔軟な介護サービス」（54.4%）が過半数に達している。次いで「介護サービスや介護サービスを提供する事業所、福祉用具に関する幅広い情報の提供」（41.4%）、「介護サービスを選択するための助言・アドバイス」（39.4%）と、介護サービスに係る情報提供やアドバイスへのニーズも高い。また、仕事と介護を両立するうえで「介護をしながらでも仕事が続けられるような柔軟な介護サービス」（54.4%）は、「介護しながらでも仕事が続けられるような短時間勤務などの労働環境の整備」（28.6%）、「介護に専念できるような介護休業制度の充実」（22.2%）よりも回答割合が高く、勤務制度や休業制度といった労働環境の整備よりも、柔軟なサービスの提供への期待が高い。

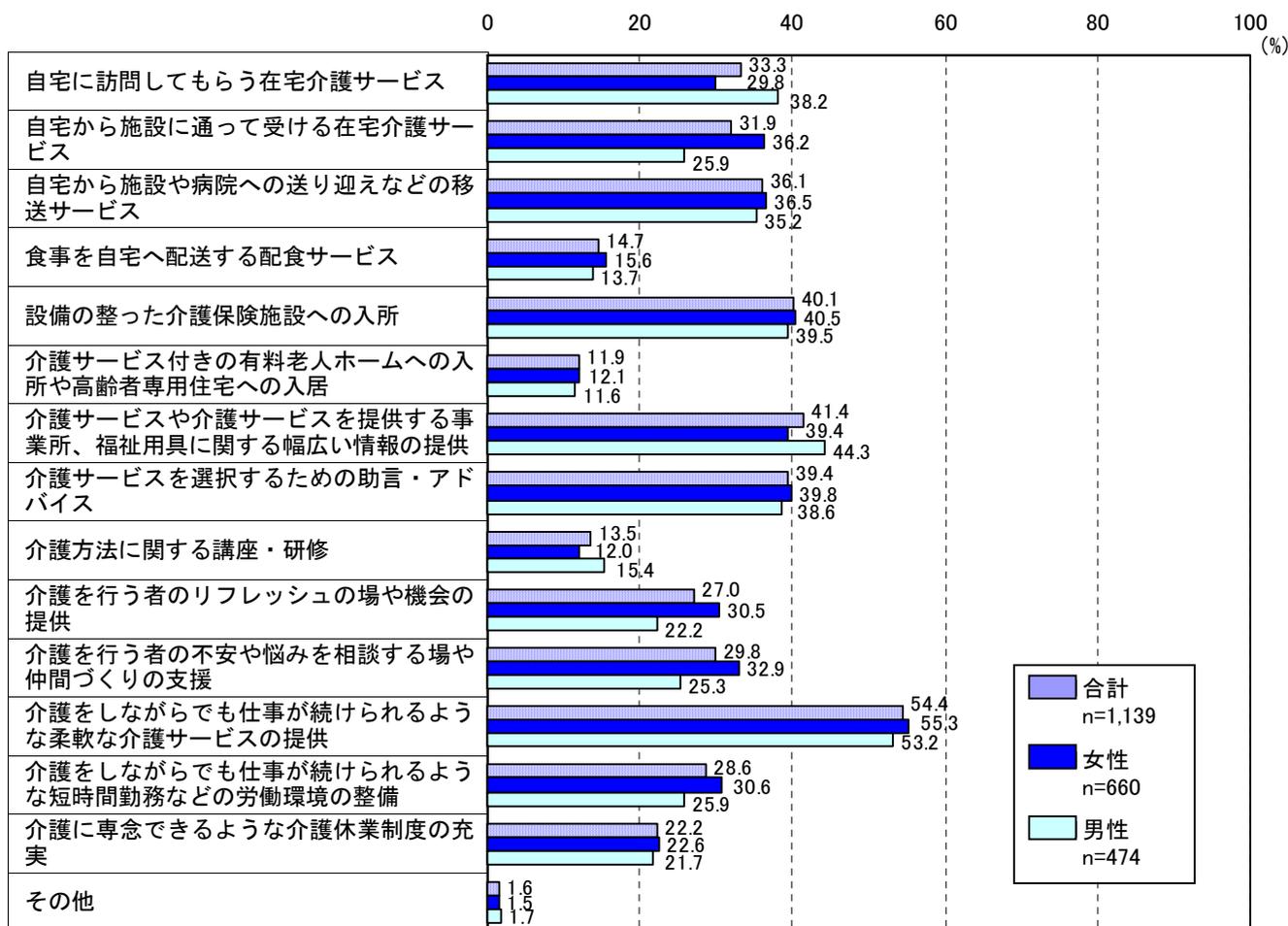
性別では、女性の「自宅から施設に通って受ける在宅介護サービス」（36.2%）、「介護を行う者のリフレッシュの場や機会の提供」（30.5%）、「介護を行う者の不安や悩みを相談する場や仲間づくりの支援」（32.9%）が、男性（順に 25.9%、22.2%、25.3%）よりも高い。男性では「自宅に訪問してもらう在宅介護サービス」（38.2%）が女性（29.8%）よりも高い。

夫婦の就労別でみると、全般的に「介護をしながらでも仕事が続けられるような柔軟な介護サービス」が支持されているなかでも、【夫婦共働き】の女性（63.2%）がほかの区分と比べて高い。

また、「その他」の記載欄には、『その時の状況にならないとわからない。介護度にもよると思う』というものが複数あった。

問8 あなたが家族の介護をする（している）場合、どのような支援を希望しますか。
（〇は5つまで）

〔図 8-1 介護支援に期待すること（全体・性別）〕



〔表 8-1 介護支援に期待すること（夫婦の就労状況別）〕

	n	自宅に訪問してもらう在宅介護サービス	自宅から施設に通って受ける在宅介護サービス	自宅から施設や病院への送り迎えなどの移送サービス	食事を自宅へ配送する配食サービス	設備の整った介護保険施設への入所	住宅ホームへの入居や高齢者専用老人ホームへの入居	介護サービス付きの有料老人ホームへの入居や高齢者専用住宅への入居	介護サービスや介護サービスを提供する事業所、福祉用具に関する幅広い情報の提供	介護サービスを選択するための助言・アドバイス	介護方法に関する講座・研修	介護を行う者のリフレッシュの場や機会の提供	介護を行う者の不安や悩みを相談する場や仲間づくりの支援	介護をしながらでも仕事が続けられるような柔軟な介護サービスの提供	介護をしながらでも仕事が続けられるような短時間勤務などの労働環境の整備	介護に専念できるような介護休業制度の充実	その他
		【女性】															
合計	496	28.8	37.7	34.7	14.7	42.3	12.1	39.3	39.5	10.1	32.1	32.3	55.4	30.6	21.6	1.8	
夫婦共働き	302	28.1	39.4	32.5	13.2	44.0	11.6	39.4	35.4	10.9	33.4	30.8	63.2	34.4	16.6	1.7	
自身が働き、配偶者は就労していない	29	27.6	41.4	44.8	17.2	37.9	10.3	41.4	48.3	10.3	24.1	34.5	51.7	34.5	27.6	0.0	
配偶者が働き、自身は就労していない	106	29.2	36.8	35.8	20.8	36.8	8.5	37.7	43.4	5.7	36.8	31.1	46.2	26.4	30.2	0.0	
夫婦共に就労していない	59	32.2	28.8	39.0	10.2	45.8	22.0	40.7	49.2	13.6	20.3	40.7	33.9	16.9	28.8	6.8	
【男性】																	
合計	376	36.2	28.7	32.2	12.0	41.5	12.5	43.9	39.6	14.9	23.7	25.0	51.6	25.8	23.7	2.1	
夫婦共働き	219	30.1	32.0	37.0	11.9	41.1	15.1	42.5	38.4	14.2	21.9	24.7	56.6	29.2	23.7	3.2	
自身が働き、配偶者は就労していない	80	41.3	30.0	21.3	15.0	36.3	11.3	50.0	41.3	12.5	31.3	22.5	43.8	26.3	26.3	1.3	
配偶者が働き、自身は就労していない	16	37.5	12.5	25.0	0.0	43.8	0.0	43.8	25.0	25.0	18.8	37.5	43.8	25.0	18.8	0.0	
夫婦共に就労していない	61	50.8	19.7	31.1	11.5	49.2	8.2	41.0	45.9	18.0	21.3	26.2	45.9	13.1	21.3	0.0	

要点

- ◆ **子どもができて職業を持ち続ける「継続型」が、子どもが大きくなったら再び職業を持つ「再就職型」の割合を上回っている。**
- ◆ **「継続型」の割合は女性の方が高い。**
- ◆ **経年的には、男女ともに「継続型」が増加してきており、女性の「再就職型」は減少の傾向にある。**

一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えるか聞いたところ、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」（48.4%）、次いで「子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」（36.4%）の2つが大多数を占めており、「女性は職業を持たないほうがよい」「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と答えた割合は合わせても8.3%と低い。

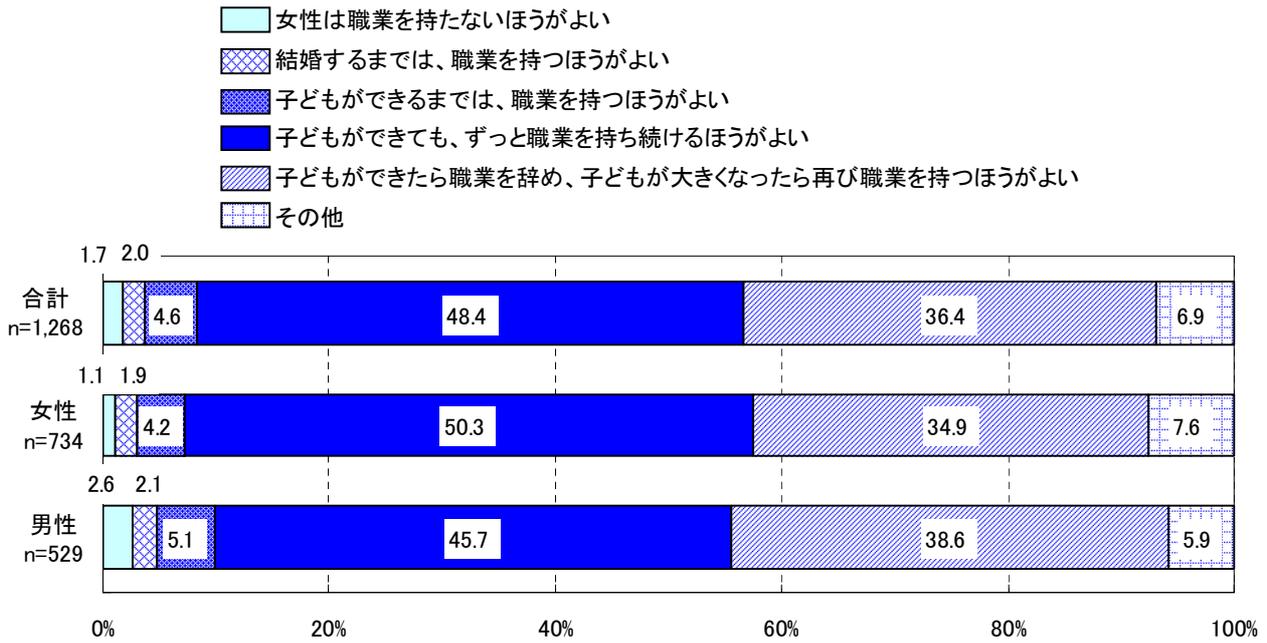
性別でも、女性・男性ともに「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」（順に50.3%・45.7%）が「子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」（順に34.9%・38.6%）よりも高いが、この2選択肢間の差を比べると女性は15.4ポイント、男性は7.1ポイントで、女性の方でより継続就業の志向が現れている。

また、「その他」の記載欄には、『育児休業制度を活用して復帰』（女性・男性とも）のほか、『家庭により様々でよい』（女性・男性とも）『一般的にという考え方がおかしい』（男性）など、本人の意思と各家庭の環境次第という回答が多く見られた。

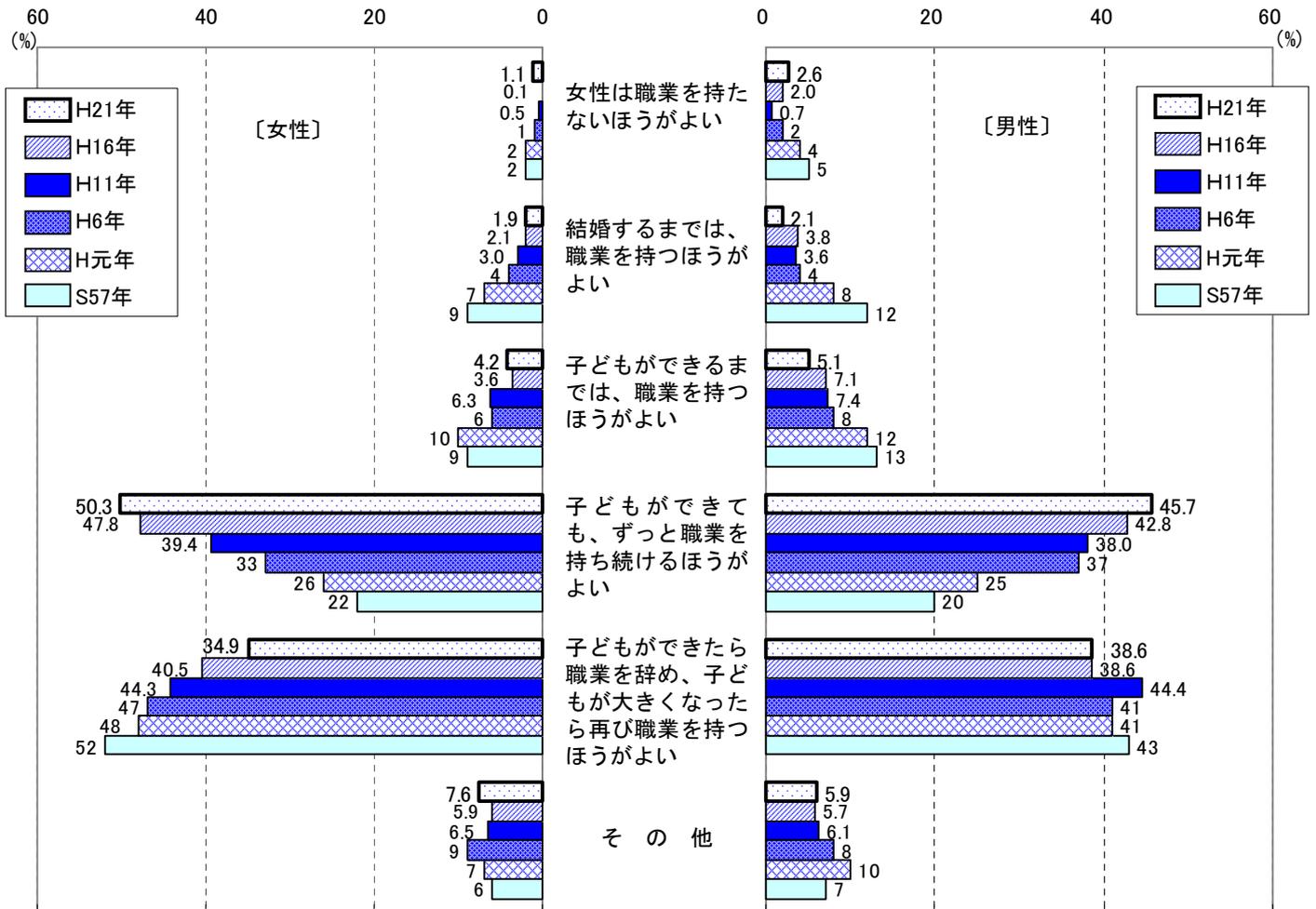
経年的にみると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と答えた割合が女性・男性ともに増加の一途にあり、「子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は女性で減少傾向にある一方、男性では変化の幅がごくわずかである。

問9 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

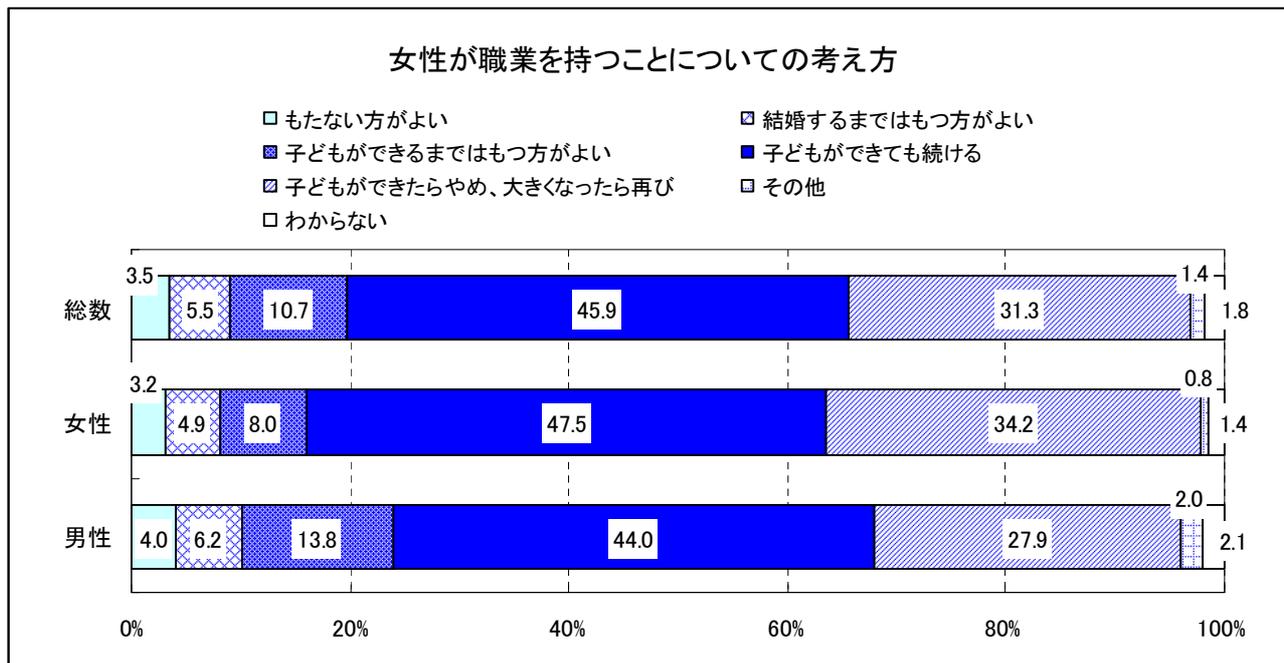
〔図9-1 女性の働き方についての考え（全体・性別）〕



〔図9-2 女性の働き方についての考え（過去の調査との比較）〕



[参考 世論調査の結果]



出典：「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府・平成21年10月）

10 職業を持つことについての考え

【職業を持っている理由】

要点

- ◆ 「生計維持のため」が圧倒的多数を占めている。
- ◆ 「生計維持」は男性の方が、「家計の足し」は女性の方が割合が高い。

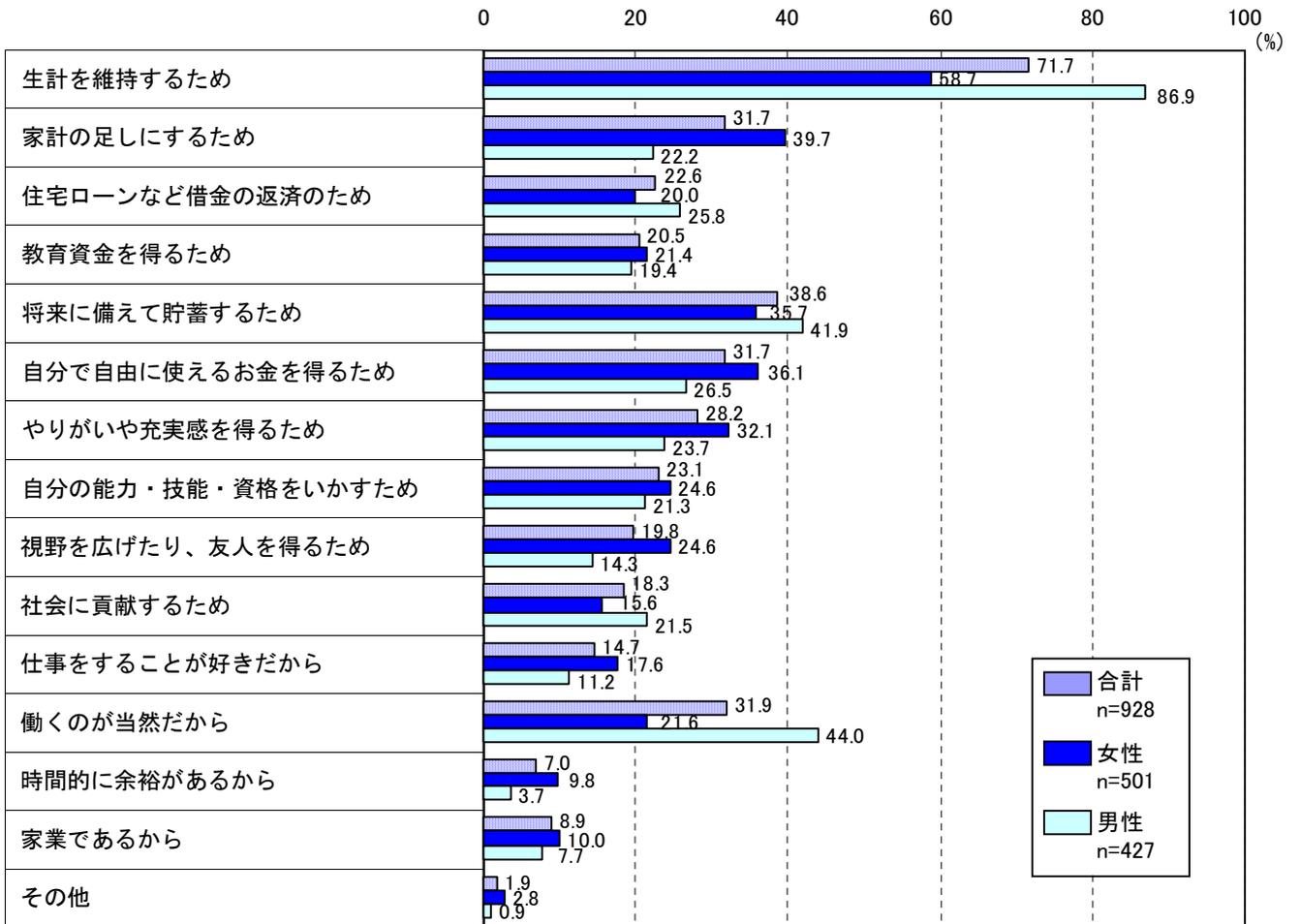
現在、職業を持っている人にその理由を聞いたところ、「生計を維持するため」(71.7%)が圧倒的に高い。次いで「将来に備えて貯蓄するため」(38.6%)、「働くのが当然だから」(31.9%)、「家計の足しにするため」「自分で自由に使えるお金を得るため」(ともに31.7%)と続く。

性別では、男性は女性よりも「生計を維持するため」(順に86.9%、58.7%)で28.2ポイント、「働くのが当然だから」(順に44.0%、21.6%)で22.4ポイント回答割合が高い。一方、女性は男性よりも「家計の足しにするため」(順に39.7%、22.2%)で17.5ポイント、「視野を広げたり、友人を得るため」(順に24.6%、14.3%)で10.3ポイント高い。

年代別にみると、「生計を維持するため」と答えた男性が50歳代までは非常に高く、定年退職時期にあたる60歳代以降で回答割合が下がるのに対し、女性では20歳代をピーク(71.1%)に徐々に低下する傾向にある。一方、女性の「家計の足しにするため」では20歳代(21.1%)と30歳代(48.4%)との間で大きな差が見られる。

問10 現在、**職業をお持ちのかた**におたずねします。あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

〔図 10-1 職業を持っている理由（全体・性別）〕



〔表 10-1 職業を持っている理由（年代別）〕

	n	生計を維持するため	家計の足しにするため	住宅ローンなど借金の返済のため	教育資金を得るため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由に使えるお金を得るため	やりがいや充実感を得るため	自分の能力・技能・資格をいかすため	視野を広げたり、友人を得るため	社会に貢献するため	仕事をするのが好きだから	働くのが当然だから	時間的に余裕があるから	家業であるから	その他	
		合計	501	58.7	39.7	20.0	21.4	35.7	36.1	32.1	24.6	24.6	15.6	17.6	21.6	9.8	10.0
【女性】	20~29歳	38	71.1	21.1	13.2	2.6	55.3	60.5	28.9	21.1	34.2	10.5	13.2	34.2	5.3	0.0	5.3
	30~39歳	95	64.2	48.4	24.2	31.6	48.4	46.3	33.7	27.4	29.5	13.7	23.2	17.9	6.3	6.3	3.2
	40~49歳	132	59.1	46.2	27.3	38.6	35.6	40.2	34.1	24.2	26.5	17.4	13.6	18.2	11.4	8.3	0.8
	50~59歳	167	59.9	40.1	16.8	14.4	29.3	25.7	29.9	24.6	21.0	14.4	15.0	24.0	10.8	13.2	2.4
	60~69歳	61	42.6	26.2	9.8	1.6	26.2	26.2	36.1	23.0	19.7	21.3	29.5	19.7	11.5	13.1	6.6
	70~79歳	6	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0
	80歳以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	【男性】	合計	426	87.1	22.3	25.8	19.5	41.8	26.3	23.7	21.4	14.3	21.6	11.0	44.1	3.5	7.7
20~29歳		31	83.9	19.4	12.9	6.5	51.6	48.4	32.3	22.6	19.4	25.8	12.9	45.2	6.5	3.2	0.0
30~39歳		63	93.7	23.8	33.3	31.7	49.2	34.9	36.5	30.2	22.2	25.4	9.5	57.1	3.2	4.8	0.0
40~49歳		90	94.4	18.9	31.1	32.2	44.4	25.6	20.0	16.7	8.9	16.7	8.9	36.7	1.1	5.6	1.1
50~59歳		147	92.5	21.8	29.9	19.7	44.9	27.9	21.1	22.4	11.6	24.5	9.5	51.0	2.7	6.8	1.4
60~69歳		79	70.9	25.3	15.2	3.8	27.8	11.4	20.3	19.0	19.0	20.3	17.7	31.6	6.3	13.9	1.3
70~79歳		14	64.3	28.6	7.1	0.0	21.4	14.3	14.3	7.1	7.1	0.0	7.1	35.7	7.1	21.4	0.0
80歳以上		2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【職業を持っていない理由】

要点

- ◆ 「**高齢だから**」が圧倒的多数を占めている。
- ◆ **女性で家庭での負担を理由とする割合が高く、20～30 歳代では子育て、50 歳代では家族の介護や世話を理由に挙げた人が多い。**

現在、職業を持っていない人にその理由を聞いたところ、「高齢（定年退職した後）だから」（44.7%）が圧倒的に多く、次いで「健康や体力に自信がないから」（18.0%）、「希望どおりの仕事が得られないから」（17.4%）と続く。

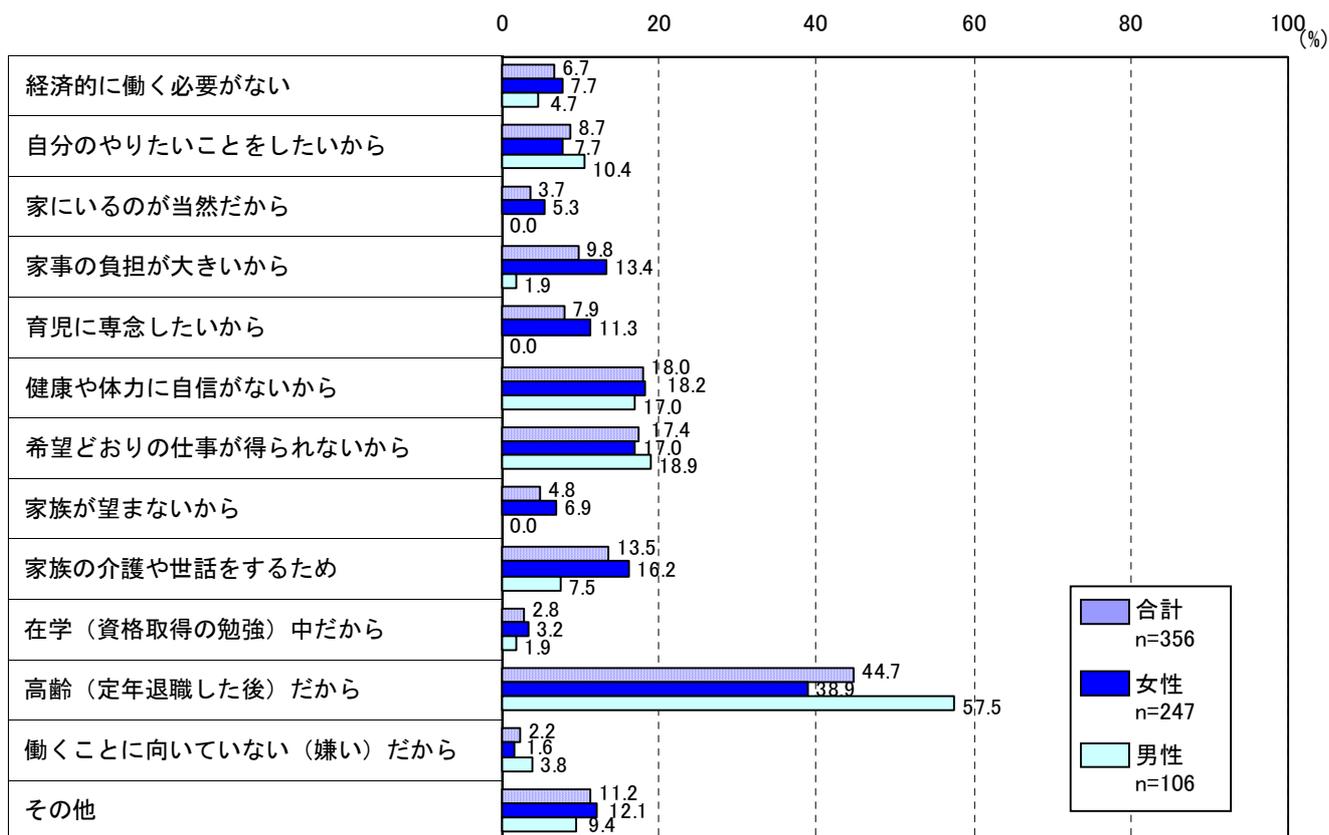
性別でみると、「高齢（定年退職した後）だから」では男性（57.5%）が女性（38.9%）よりも高い。一方、女性が男性よりも回答割合の高いものは「家事の負担が大きいから」（順に 13.4%、1.9%）、「育児に専念したいから」（同 11.3%、0.0%）、「家族の介護や世話をするため」（同 16.2%、7.5%）で、いずれも家庭での負担を理由に挙げている。

年代別では、女性の 20～30 歳代で「育児に専念したいから」（順に 33.3%、43.8%）、40 歳代で「希望どおりの仕事が得られないから」（42.1%）、50 歳代で「家族の介護や世話をするため」（38.9%）と答えた割合がほかの年代と比べて高い。男性はサンプル数が少ないなかでも、30～50 歳代で「希望どおりの仕事が得られないから」と答えた人が多い（順に 66.7%、42.9%、66.7%）。

また、選択肢「その他」への記述には『不況により職がない』（女性・男性とも）、『孫の世話』『子どもができ辞めなければならない状況になった』（女性）というものもあった。

問11 現在、**職業をお持ちでないかた**におたずねします。あなたが職業をお持ちでないのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

[図 11-1 職業を持っていない理由（全体・性別）]



[表 11-1 職業を持っていない理由（年代別）]

	n	要	ら	こ	自	然	家	き	家	い	育	信	健	か	事	希	か	家	話	家	ら	在	高	い	働	そ		
		経	こ	と	分	だ	事	い	事	育	が	康	事	事	望	家	族	族	の	勉	学	し	高	て	く	の		
		済	を	の	の	に	か	か	か	ら	に	な	や	ら	が	望	族	を	勉	学	し	高	て	く	の	の		
合計	246	7.7	7.7	5.3	13.4	11.0	18.3	17.1	6.9	16.3	3.3	39.0	1.6	12.2														
女性	20～29歳	15	0.0	6.7	0.0	13.3	33.3	13.3	33.3	6.7	0.0	40.0	0.0	13.3	0.0													
	30～39歳	32	9.4	0.0	3.1	31.3	43.8	12.5	28.1	15.6	9.4	3.1	0.0	0.0	18.8													
	40～49歳	19	0.0	15.8	5.3	15.8	26.3	10.5	42.1	0.0	15.8	5.3	0.0	0.0	26.3													
	50～59歳	54	14.8	9.3	9.3	11.1	1.9	20.4	18.5	14.8	38.9	0.0	7.4	3.7	18.5													
	60～69歳	87	8.0	10.3	5.7	10.3	0.0	27.6	11.5	3.4	11.5	0.0	65.5	0.0	8.0													
	70～79歳	25	4.0	4.0	0.0	12.0	4.0	8.0	0.0	0.0	8.0	0.0	88.0	0.0	8.0													
	80歳以上	14	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	92.9	0.0	0.0													
男性	合計	106	4.7	10.4	0.0	1.9	0.0	17.0	18.9	0.0	7.5	1.9	57.5	3.8	9.4													
	20～29歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0													
	30～39歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0													
	40～49歳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6													
	50～59歳	15	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	26.7	66.7	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	13.3													
	60～69歳	44	4.5	13.6	0.0	4.5	0.0	6.8	6.8	0.0	13.6	0.0	75.0	0.0	6.8													
	70～79歳	23	4.3	13.0	0.0	0.0	0.0	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	82.6	0.0	4.3													
80歳以上	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0														

【やりたい仕事があれば働きたいか】

要点

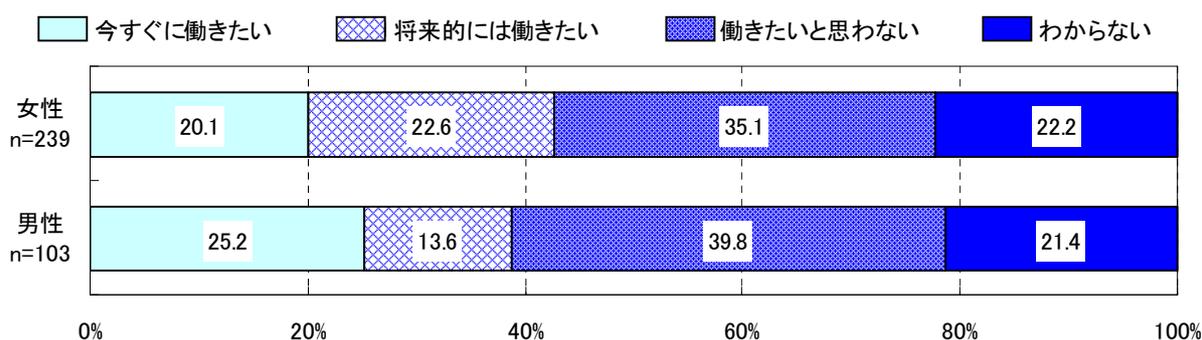
- ◆ 男女ともに「働きたいと思わない」の割合が最も高い。
- ◆ 女性では40歳代で「今すぐに働きたい」の割合がほかの年代と比べて高い。

今後やりたいと思う仕事があれば働きたいと思うかについて聞いたところ、女性・男性ともに「働きたいと思わない」（順に 35.1%・39.8%）と答えた割合が最も高く、「わからない」を除くと、女性では「将来的には働きたい」（22.6%）、「今すぐに働きたい」（20.1%）、男性では「今すぐに働きたい」（25.2%）、「将来的には働きたい」（13.6%）の順に続く。

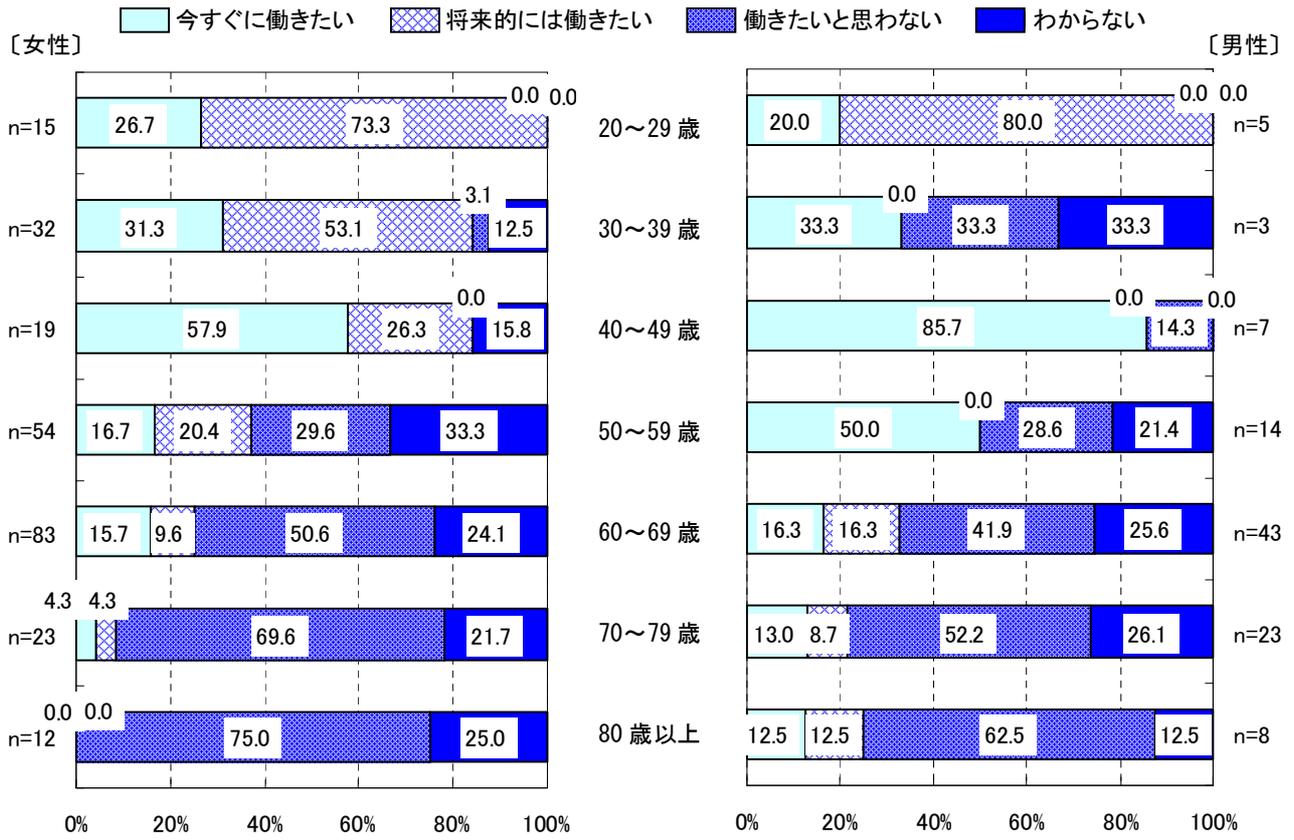
年代別でみるとサンプル数が少ないが、女性では40歳代で「今すぐに働きたい」がほかの年代と比べて高い（57.9%）。男性では定年退職前後の50歳以上において「今すぐに働きたい」「将来的には働きたい」と答えた割合が女性よりも高い。

問12 現在、職業をお持ちでないかたにおたずねします。あなたは今後、やりたいと思う仕事があれば働きたいと思いますか。（○は1つだけ）

〔図 12-1 やりたい仕事があれば働きたいか（性別）〕



〔図 12-2 やりたい仕事があれば働きたいか（年代別）〕



要点

- ◆ **女性で16人に1人、男性で50人に1人が、この5年の間にDVの被害を受けたことがあると答えている。**
- ◆ **過去に受けたことがあると答えた人を含めると、被害経験があると答えたのは女性のおよそ6人に1人、男性の32人に1人となる。**
- ◆ **この5年の間に被害を受けた人のおよそ4割はどこにも相談していない。**

配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力を受ける“ドメスティック・バイオレンス”（DV）の被害経験については、「この1年の間に、被害を受けた」（2.0%）と「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（2.4%）を合わせた『この5年間に経験あり』の回答割合は4.4%、これに「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」（7.4%）を加え『経験がある』と答えたのは11.9%であった。

性別で見ると、女性では「この1年の間に、被害を受けた」（2.8%）と「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（3.4%）を合わせて6.2%、換算すると16人に1人が『この5年間に経験あり』と答えている。男性でも「この1年の間に、被害を受けた」「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（ともに1.0%）を合わせると2.0%で、50人に1人が『この5年間に経験あり』という割合となる。また「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」を含めた、これまでにDV被害の『経験がある』と答えた割合は、女性のおよそ6人に1人（17.9%）、男性の32人に1人程度（3.1%）となる。

また、『この5年間に経験あり』と回答した人に、だれかに相談したかどうかについて聞いたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（43.4%）が最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」（34.0%）、「友人・知人に相談した」（24.5%）と続き、専門機関や各種相談窓口相談した割合は総じて低い。

さらに、「どこ（だれ）にも相談しなかった」のはなぜか理由を聞いたところ、「相談してもむだだと思ったから」「自分ががまんさえすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（ともに43.5%）のほか、「相談するほどのことではないと思ったから」（39.1%）の回答割合が高い。

問13 配偶者や交際相手から身体的・精神的な暴力等を受ける「ドメスティック・バイオレンス（DV）」に関して、あなたは暴力の被害を受けたことがありますか。

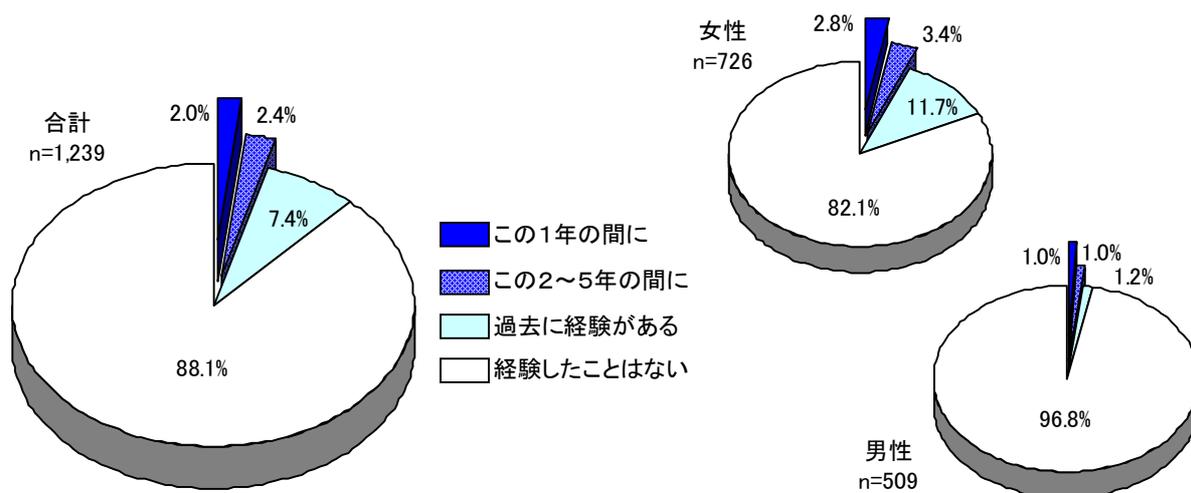
問13-1 その時あなたは、だれかに相談しましたか。（○はいくつでも）

※問13で「この1年の間に、被害を受けた」「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」を選択したかたのみ回答

問13-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

※問13-1で「どこ（だれ）にも相談しなかった」を選択したかたのみ回答

〔図 13-1 DV被害の経験（全体・性別）〕



〔表 13-1 DV被害の相談先〕

	n	相談した（婦人相談センター）	福祉相談センター	女性共同参画センター	男女共同参画の窓口やタ	人権相談の窓口	警察に連絡・相談した	市町村の相談窓口	左以外の公的な機関に相談した	民間の専門家や専門機関に相談した	医療関係者に相談した	学校関係者に相談した	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	その他	どこにも相談しなかった
合計	53	1.9	7.5	1.9	3.8	7.5	1.9	3.8	9.4	0.0	34.0	24.5	1.9	43.4		
女性	43	2.3	9.3	2.3	2.3	9.3	2.3	4.7	11.6	0.0	34.9	30.2	2.3	37.2		
男性	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	70.0		

〔表13-2 DV被害を相談しなかった理由〕

	n	どこに相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	ひどい暴力を受けると思ったから	仕返しをされたり、かわかると、相談したことがわかったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	快な思いをさせられると、相談相手の言動によって、思ったから	自分がかまさんさえすれば、なんとかこのままやっつけていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまくなると思ったから	他人に知られると、これまくなると思ったから	そのことについて思い出し、たくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
合計	23	4.3	30.4	43.5	0.0	0.0	4.3	43.5	8.7	0.0	0.0	4.3	30.4	4.3	39.1	13.0		
女性	16	6.3	18.8	43.8	0.0	0.0	0.0	50.0	6.3	0.0	0.0	6.3	25.0	6.3	50.0	12.5		
男性	7	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3	14.3		

要点

- ◆ **女性の13人に1人、男性の100人に1人強が、過去にストーカーの被害を受けたことがあると答えている。**
- ◆ **この5年の間に被害を受けた人の3人に2人は、警察などにその被害を相談していない。**

同じ人につきまったり、執拗に電話をかけるなどの、いわゆる“ストーカー行為”の被害経験については、「この1年の間に、被害を受けた」（0.5%）と「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（0.5%）を合わせた『この5年間に経験あり』の回答割合は1.0%、これに「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」（4.1%）を加え『経験がある』と答えたのは5.1%であった。

性別では、女性では「この1年の間に、被害を受けた」（0.6%）、「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（0.7%）、「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」（6.4%）を合わせると13人に1人（7.7%）がこれまでにストーカー被害の『経験がある』と答えている。男性では「この1年の間に、被害を受けた」（0.4%）、「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」（0.2%）、「この5年以内にはなかったが、過去に被害を受けたことがある」（1.0%）を合わせて100人に1人強（1.6%）で『経験がある』と答えている。

該当者は非常に少ないが、『この5年間に経験あり』と回答した人が、警察などの相談機関に相談したかどうかについては、3人に2人（66.7%）が「相談しなかった」と答えている。

また、「相談しなかった」理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」（50.0%）「相談してもむだだと思ったから」（37.5%）と答えた割合が高い。

問14 同じ人につきまったり、執拗に電話をかけるなどの、いわゆるストーカー行為に関して、あなたは被害を受けたことがありますか。

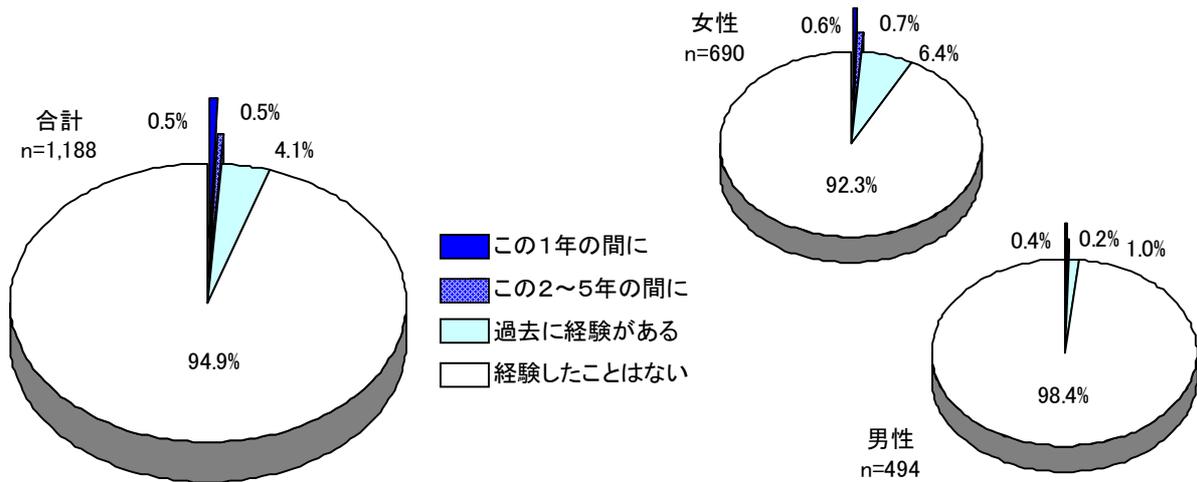
問14-1 その時あなたは、警察などの相談機関に相談しましたか。（○は1つだけ）

※問14で「この1年の間に、被害を受けた」「この2～5年の間に、被害を受けたことがある」を選択したかたのみ回答

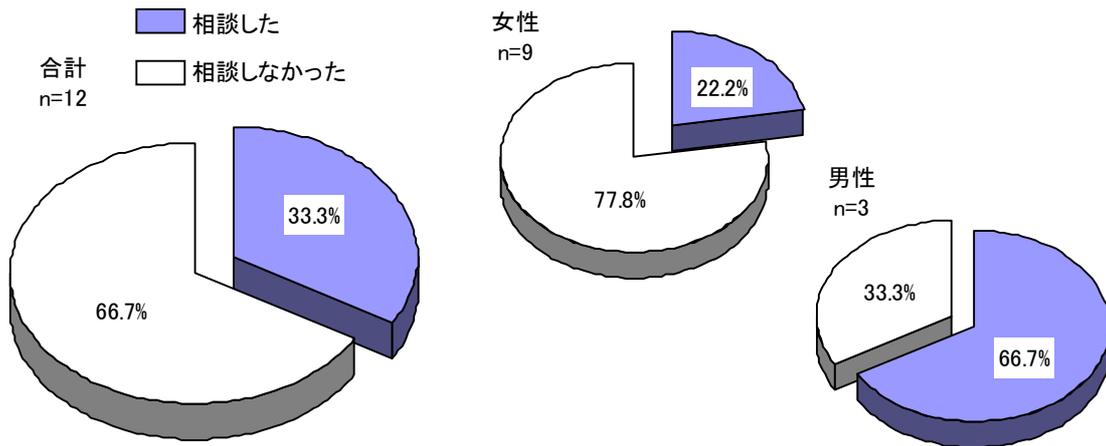
問14-2 相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

※問14-1で「相談しなかった」を選択したかたのみ回答

〔図 14-1 ストーカー被害の経験（全体・性別）〕



〔図 14-2 ストーカー被害の相談（全体・性別）〕



〔表 14-1 ストーカー被害を相談しなかった理由〕

	n	どこに相談したから	なかつたから	恥ずかしくてだれにも言え	相談してもむだだと思った	ひどい暴力を受けると思	仕返しを受けたり、もっと	相談したことがわかると、	加害者に「誰にも言うな」と	思ったから	不快な思いをさせられると	相談相手の言動によって	自分がかまんなまやれば、	世間体が悪いから	そのことについて思い出し	自分にも悪いところがある	相手の行為は愛情の表現だ	相談するほどのことではな	その他
合計	8	12.5	12.5	37.5	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0	12.5	12.5	50.0	25.0					
女性	7	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	42.9	14.3					
男性	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0					

13 男女間における暴力をなくすためには

要点

- ◆ **身近な相談窓口を増やすことのほか、命を尊び思いやりの心を育む教育や、家庭での教育が大切であるとの割合が高い。**

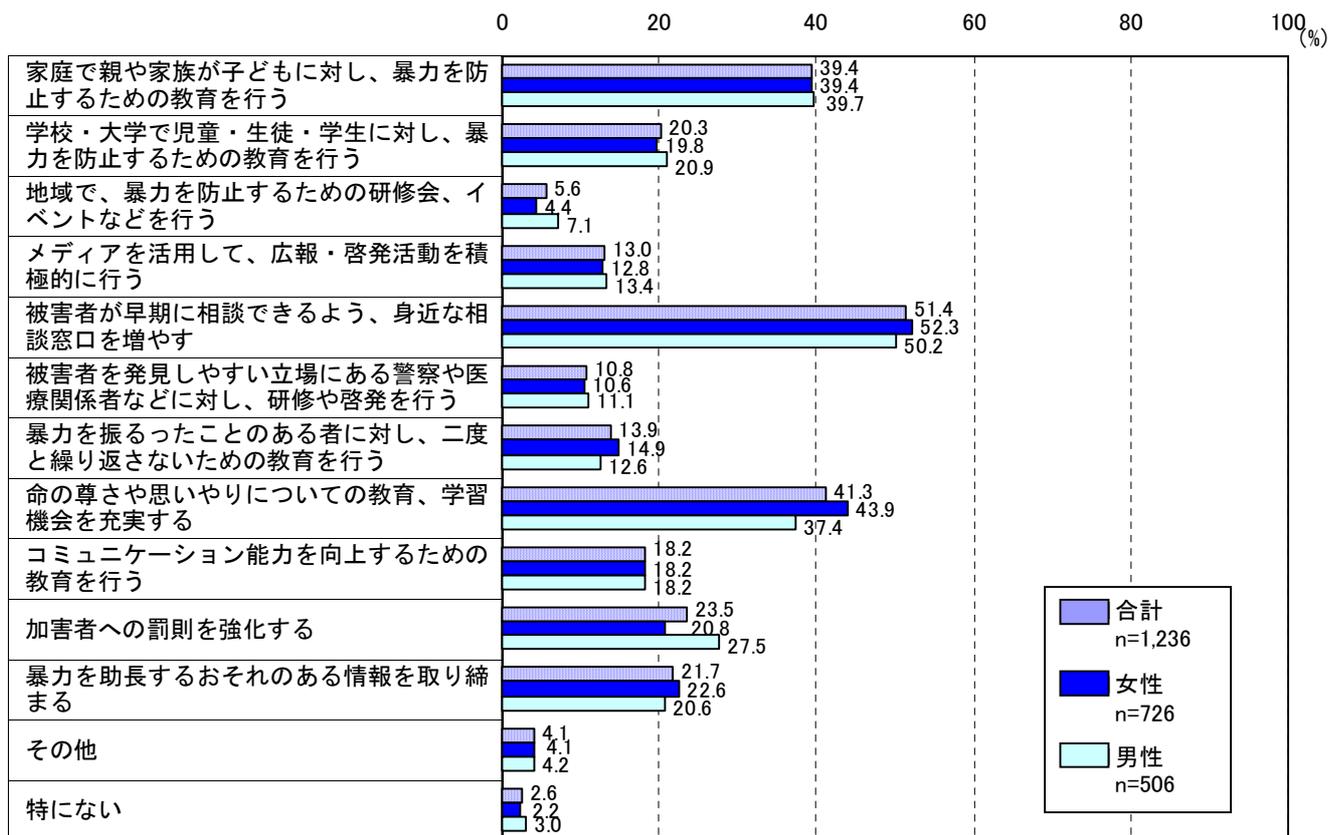
男女間における暴力をなくすために必要なことについて聞いたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（51.4%）が最も高く、次いで「命の尊さや思いやりについての教育、学習機会を充実する」（41.3%）、「家庭で親や家族が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」（39.4%）と答えた割合が高い。

性別では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「家庭で親や家族が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」など多くの選択肢では女性・男性の回答に差はみられないが、「命の尊さや思いやりについての教育、学習機会を充実する」では女性（43.9%）が男性（37.4%）よりも高く、「加害者への罰則を強化する」では男性（27.5%）が女性（20.8%）よりも高い。

また、「その他」の記載欄には、『家庭環境が大切』（女性・男性とも）のほか、『暴力は動物の本能』『改善は無理』（男性）、『教育や啓発をしても意味がない』（女性）といった意見も見られた。

問15 男女間における暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

〔図 15-1 男女間における暴力をなくすためには（全体・性別）〕



1.4 用語の認知度

要点

- ◆ 「男女共同参画社会」を知っている人は5割強で、前回調査から大きな変化は見られない。

男女共同参画に関係の深い言葉について「知っている」と答えた割合は、【男女共同参画社会】が過半数に達している（54.1%）のを除き、【鳥取県男女共同参画センター（愛称：よりん彩）】（20.6%）、【デートDV】（19.9%）などほぼ横並びに近い。

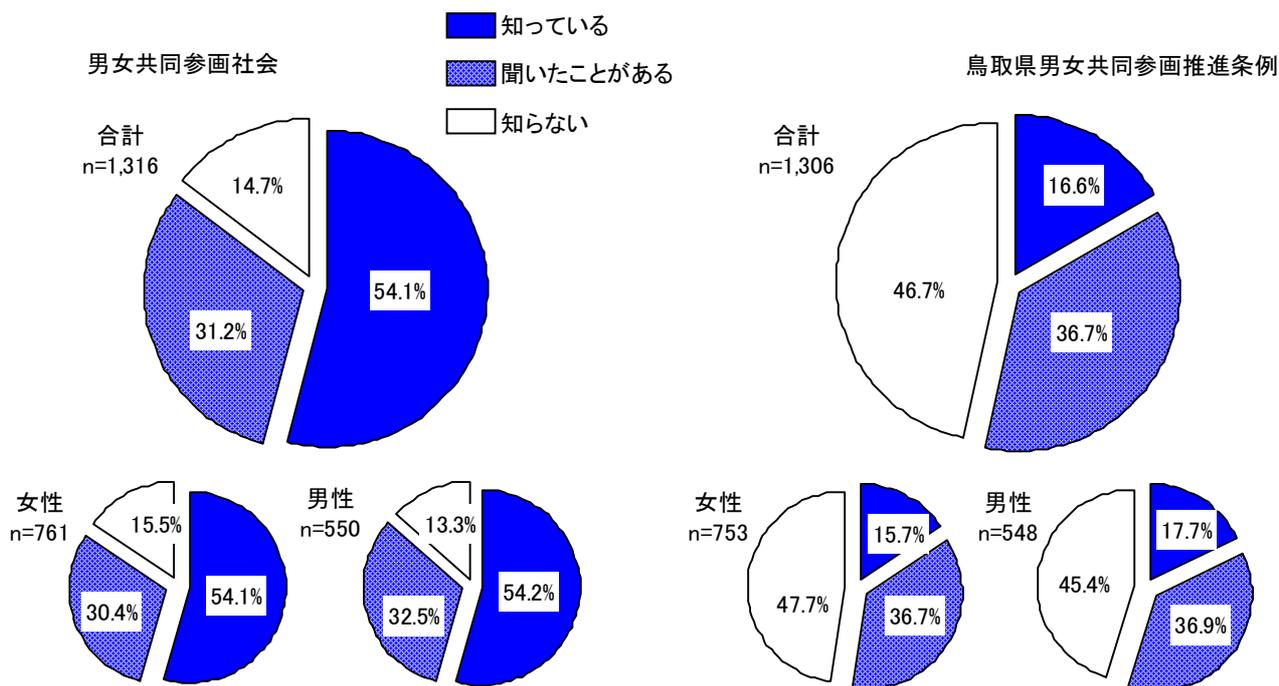
性別では、【鳥取県男女共同参画センター】と【デートDV】で女性（順に 23.5%、22.7%）が男性（同 16.5%、16.1%）よりも若干高いほかは、ほとんど違いは見られない。

経年的にみると、【男女共同参画社会】と【ジェンダー】は5年前の前回調査から大きな変化は見られず、【鳥取県男女共同参画推進条例】と【鳥取県男女共同参画センター】については「知っている」と答えた割合が前回調査よりも下がっている。

問16 あなたは、次の言葉について知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 男女共同参画社会 | 2 鳥取県男女共同参画推進条例 |
| 3 鳥取県男女共同参画センター（愛称：よりん彩） | 4 ジェンダー |
| 5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） | 6 デートDV |

〔図 16-1 用語の認知度（全体・性別）〕

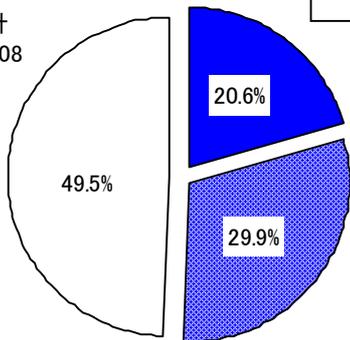


鳥取県男女共同参画センター
"よりん彩"

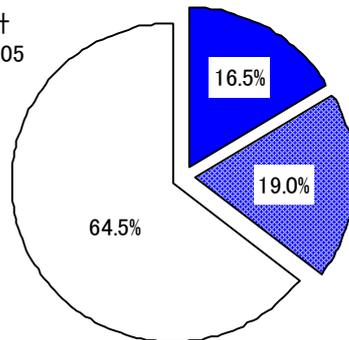
■ 知っている
■ 聞いたことがある
□ 知らない

ジェンダー

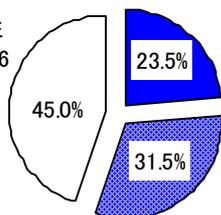
合計
n=1,308



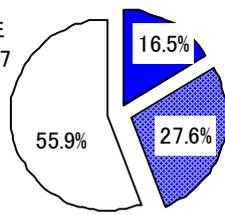
合計
n=1,305



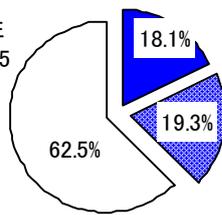
女性
n=756



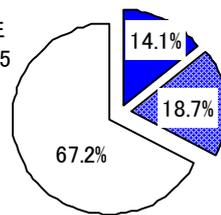
男性
n=547



女性
n=755



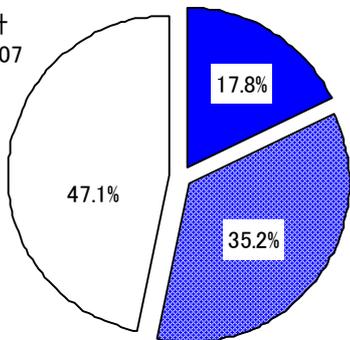
男性
n=545



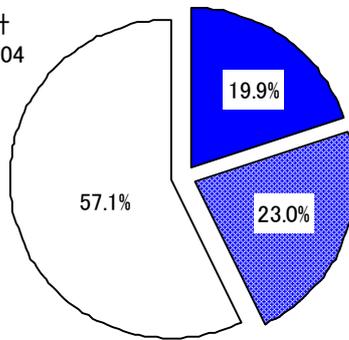
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

デートDV

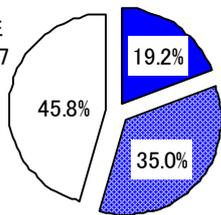
合計
n=1,307



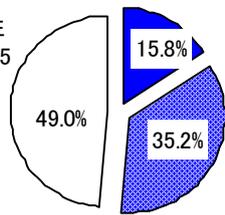
合計
n=1,304



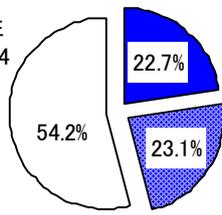
女性
n=757



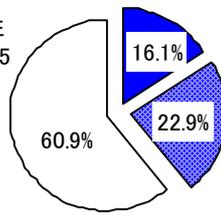
男性
n=545



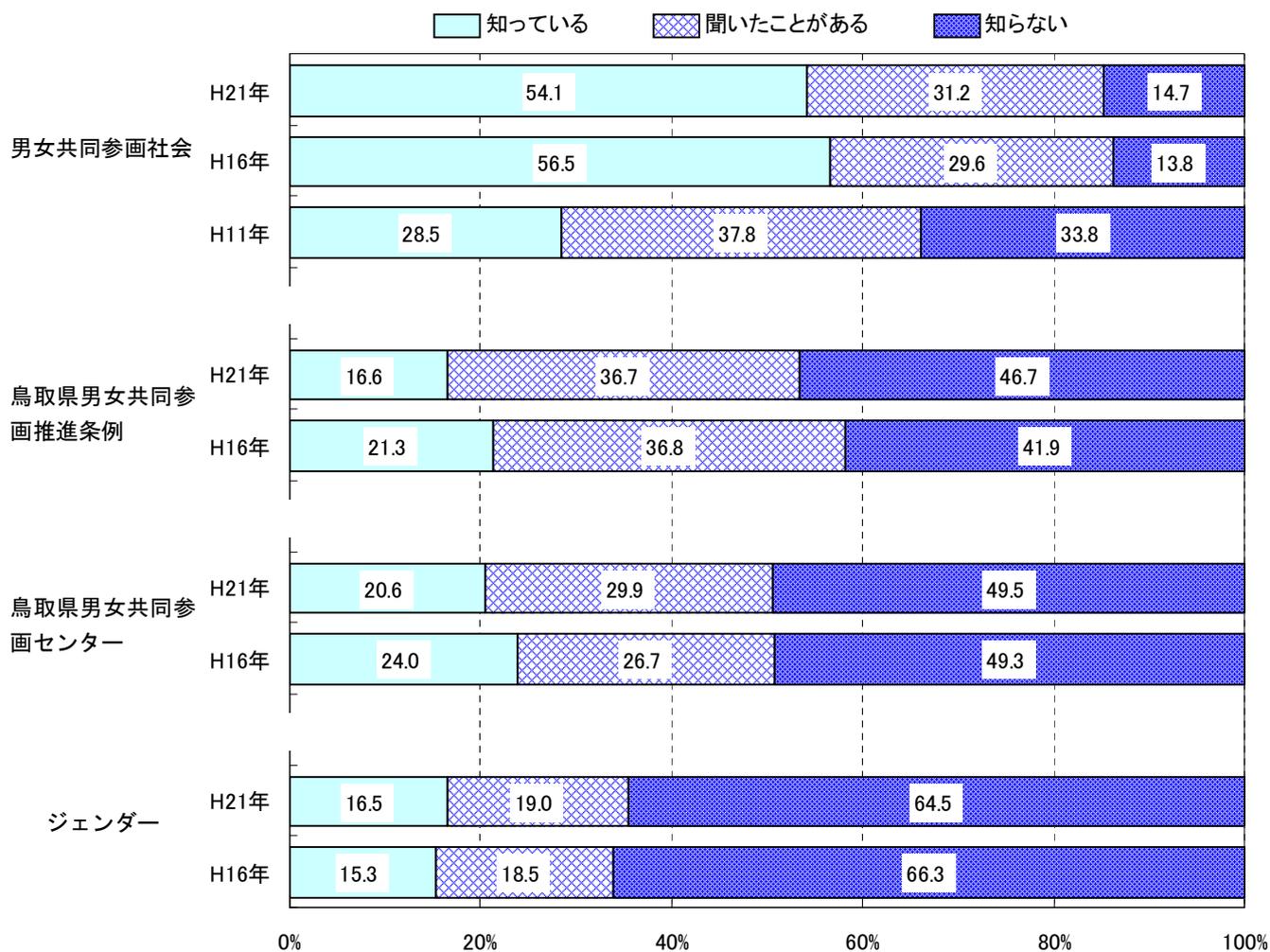
女性
n=754



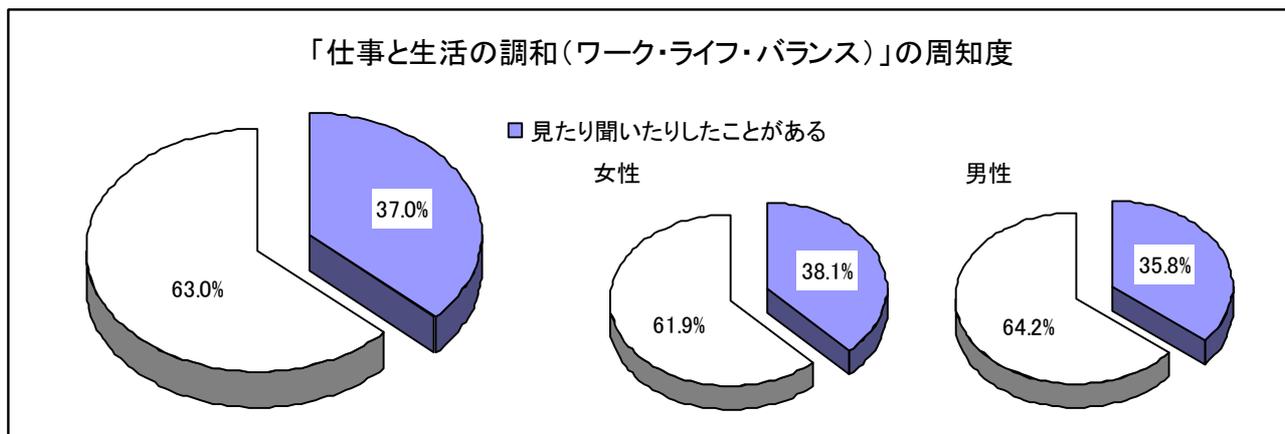
男性
n=545



〔図 16-2 用語の認知度（過去の調査との比較）〕



〔参考 世論調査の結果〕



出典：「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府・平成21年10月）

要点

- ◆ 経年的には徐々に賛成群が増加してきているものの、なお反対群の方が上回っている。
- ◆ 女性では賛否がほぼ同じ割合であるが、男性には否定的な考えの人が多い。
- ◆ 女性の若年代層ほど賛成群の割合が高く、20～40 歳代では賛成群が反対群を上回っている。

婚姻時に夫婦が望む場合は、夫婦それぞれが婚姻前の氏（姓）を名乗ることを認める“選択的夫婦別姓”制度について、どう考えるか聞いたところ、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成群』の 43.8%に対し、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対群』は 56.2%で、『反対群』の方が 12.4 ポイント上回っている。

性別でみると、女性では『賛成群』（47.9%）と『反対群』（52.1%）がほぼ同じ回答割合であるが、男性では『賛成群』（38.3%）より『反対群』（61.7%）が大きく上回っており、男性の方に否定的な考えの人が多い。

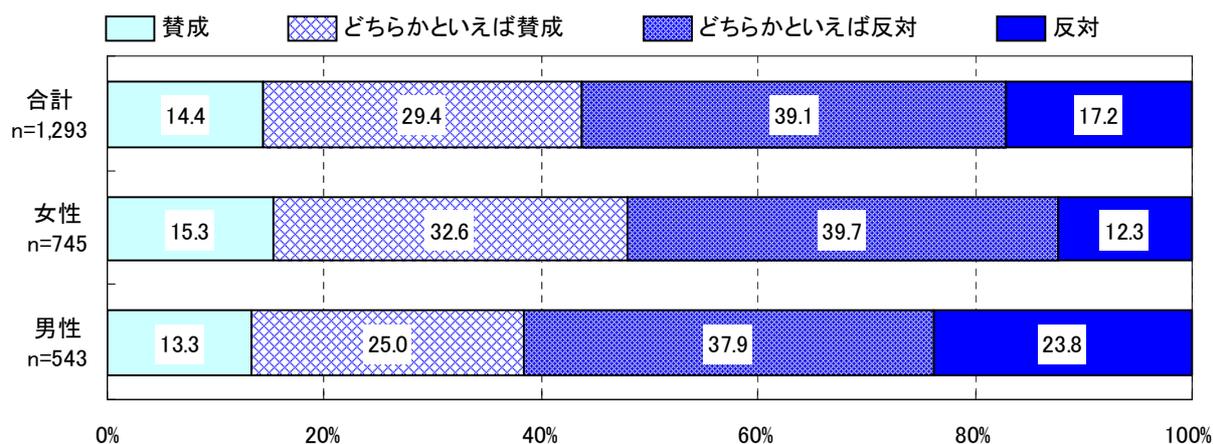
年代別では、女性で若年代層ほど『賛成群』の割合が高く、20～40 歳代では『賛成群』が『反対群』を上回っているが、50 歳代で逆転し、高年代層ほど『反対群』の割合は増している。男性については、50 歳代までは『賛成群』と『反対群』の差はそう大きくないが、60 歳代以上の層で『反対群』の割合が高い。

経年的にみると、女性・男性ともにこの 10 年で『賛成群』が増加し『反対群』が減少してきている。

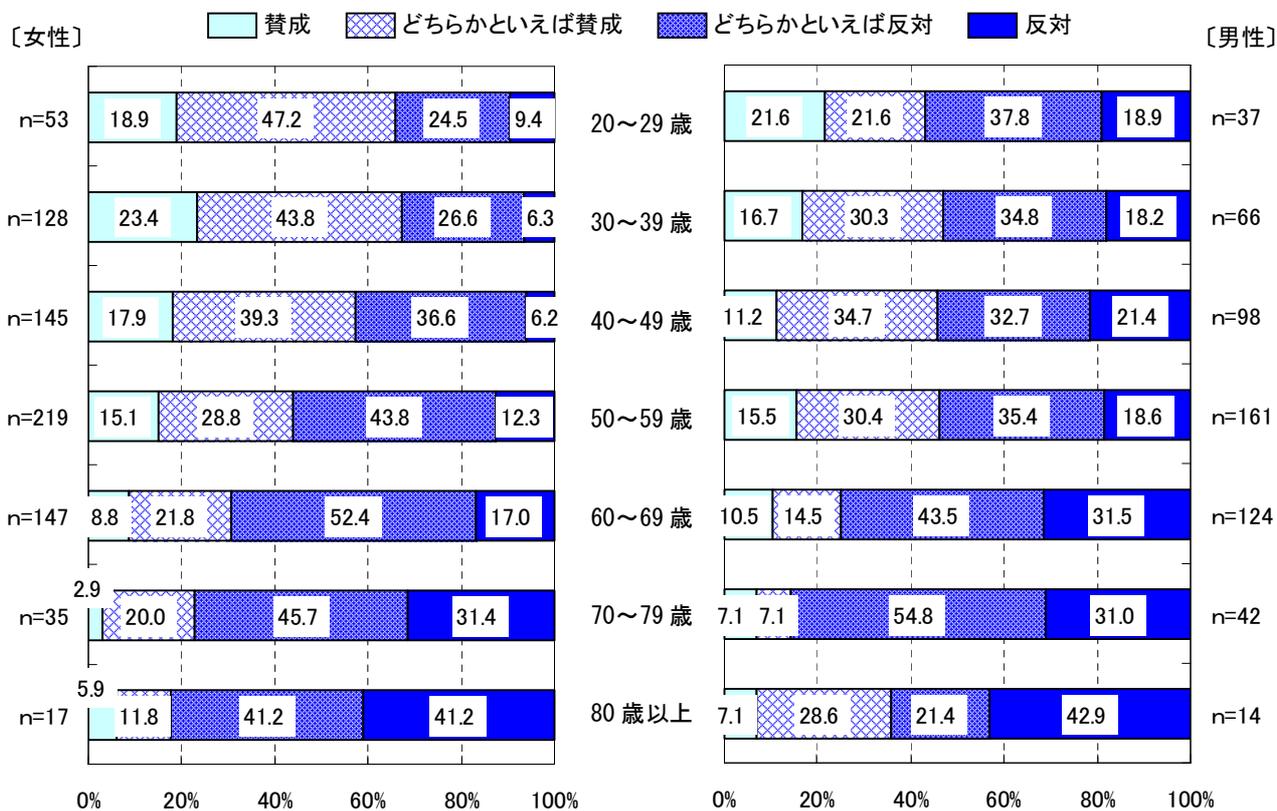
また、女性の働き方についての考え（30ページ）とのクロス集計では、女性・男性ともに「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と考える人には選択的夫婦別姓に肯定的な考えの割合が高く、一方「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と考える人には否定的な考えの割合が高い傾向が見られる。

問17 「選択的夫婦別姓」について、あなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

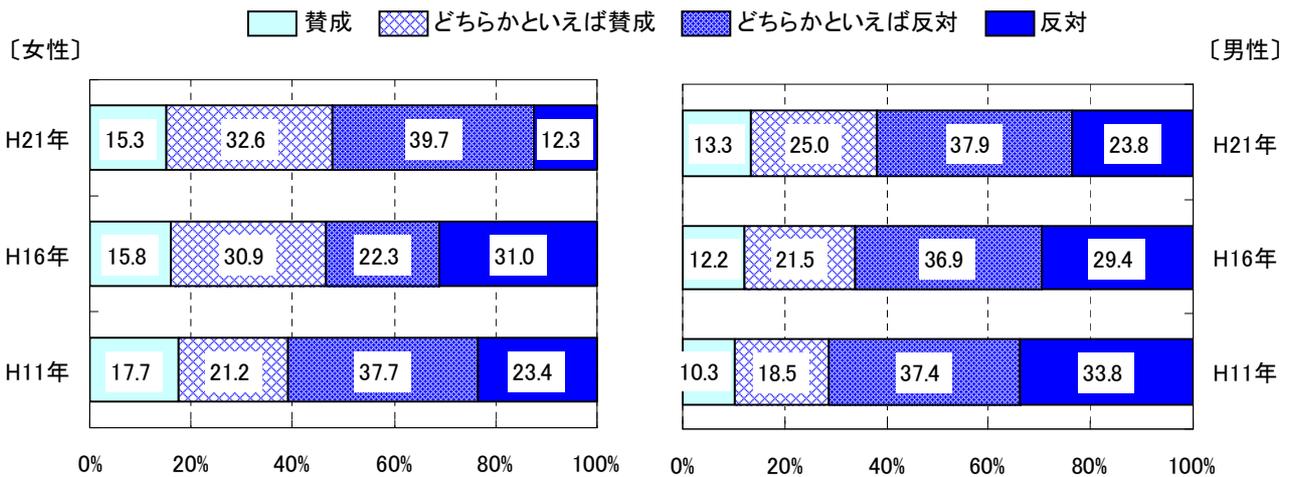
〔図 17-1 選択的夫婦別姓について（全体・性別）〕



〔図 17-2 選択的夫婦別姓について（年代別）〕



〔図 17-3 選択的夫婦別姓について（過去の調査との比較）〕



〔表 17-1 選択的夫婦別姓について×女性の働き方についての考え〕

		n	問9 女性の働き方についての考え					その他
			いた女 性は ほ職 う業 がを よ持	ほは結 う、婚 が職す よ業る いをま 持で つ	持ま子 つでど ほはも う、が が職で よ業き いをる	うをも子 が持、ど よちずも い続つが けとで る職き ほ業て	よ業な子ら いをっど職ど 持たも業も つらがをが ほ再大辞で うびきめき が職く、た	
〔女性〕	合計	714	1.0	2.0	4.3	50.7	34.9	7.1
	賛成	112	0.9	0.9	1.8	59.8	25.0	11.6
	どちらかといえば賛成	235	0.4	3.0	3.8	59.6	26.8	6.4
	どちらかといえば反対	281	0.7	2.1	5.0	43.8	42.7	5.7
	反対	86	3.5	0.0	7.0	37.2	44.2	8.1
〔男性〕	合計	518	2.5	1.9	5.2	45.6	39.0	5.8
	賛成	70	2.9	1.4	2.9	64.3	24.3	4.3
	どちらかといえば賛成	132	3.0	1.5	3.8	50.8	35.6	5.3
	どちらかといえば反対	197	2.5	0.5	6.1	46.7	38.6	5.6
	反対	119	1.7	5.0	6.7	26.9	52.1	7.6

16 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由

要点

- ◆ 男女ともに「家庭での負担が大きい」の割合が最も高く、次いで「男性優位の組織運営」が続く。

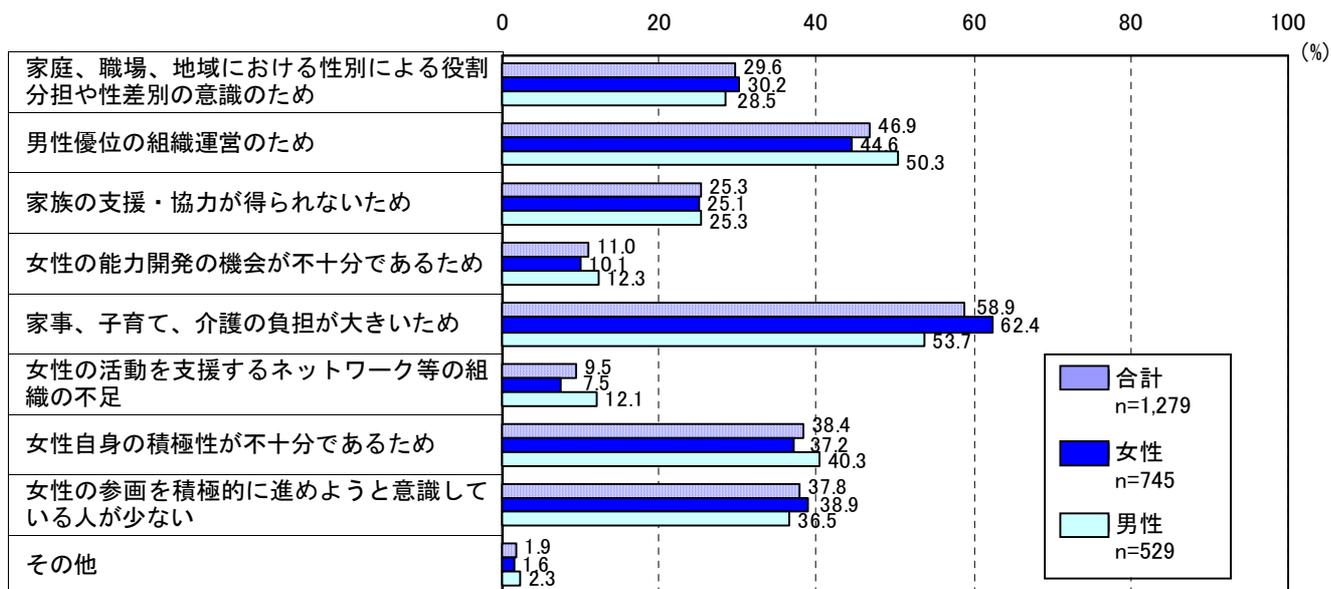
政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由としては、回答割合が高い順に「家事、子育て、介護の負担が大きいため」（58.9%）、次いで「男性優位の組織運営のため」（46.9%）、「女性自身の積極性が不十分であるため」（38.4%）、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」（37.8%）と続く。

性別でみると、「家事、子育て、介護の負担が大きいため」では女性（62.4%）が男性（53.7%）よりも高く、「男性優位の組織運営のため」では男性（50.3%）が女性（44.6%）よりも高い。

また、「その他」の記載欄には、『町内会では女性の参加も多く、参画が少ないとは思わない』（男性）というものもあった。

問18 政治や行政、自治会や町内会において、政策の企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由はなんだと思いますか。（〇は3つまで）

〔図 18-1 方針決定過程に女性の参画が少ない理由（全体・性別）〕



17 鳥取県男女共同参画センター“よりん彩”で力をいれるべき事業

要点

- ◆ 「情報・資料等の収集と提供」の割合が最も高く、次いで「理解者・リーダーの養成」が続く。
- ◆ 女性で「女性の能力向上講座の実施」を求める割合がやや高い。

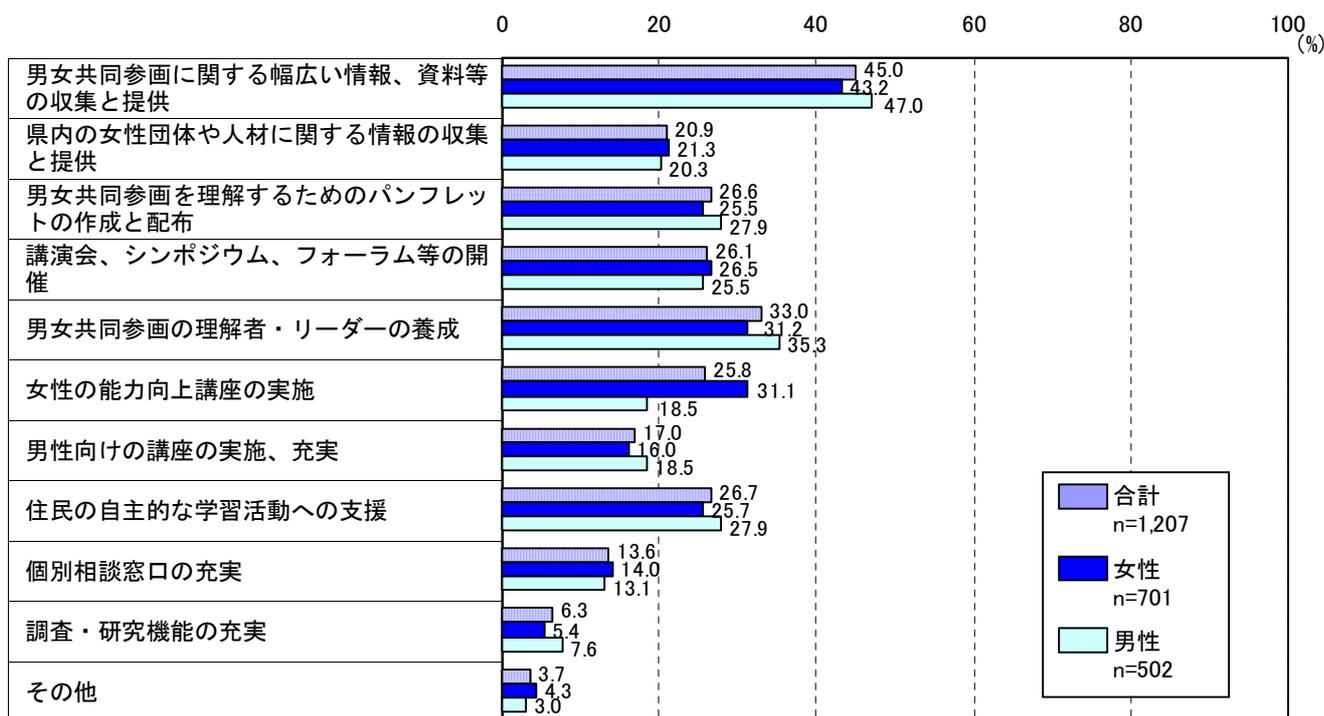
鳥取県男女共同参画センター“よりん彩”で実施している事業のどれに、今後、特に力をいれていくべきかについては、「男女共同参画に関する幅広い情報、資料等の収集と提供」（45.0%）が最も高く、次いで「男女共同参画の理解者・リーダーの養成」（33.0%）がやや高いほかは、「調査・研究機能の充実」（6.3%）を除き各選択肢に回答が分散している。

性別でも、「男女共同参画に関する幅広い情報、資料等の収集と提供」以外は回答が分散しているが、「女性の能力向上講座の実施」については女性（31.1%）が男性（18.5%）よりも高いほかは、性別で大きな違いは見られない。

また、「その他」の記載欄には『よりん彩を知らないので答えられない』が多く見られた。

問19 あなたは、「鳥取県男女共同参画センター（よりん彩）」で実施している事業のどれに、今後、特に力を入れて行くべきだと思いますか。（〇は3つまで）

〔図 19-1 “よりん彩”で力をいれるべき事業（全体・性別）〕



要点

- ◆ 「**機会均等や働きやすい環境整備を進める企業の取組支援**」、「**子育てや介護中の継続就業支援**」**「介護の施設やサービスの充実」の順に高い。**
- ◆ **子育てや介護に関する選択肢では、総じて女性が男性よりも割合が高い。**

鳥取県で“男女共同参画社会”を実現するために、今後、行政が特に力を入れて行くべきことについては、「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組を支援する」（41.7%）に「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（33.8%）と「介護が必要な高齢者や病人の施設やサービスを充実する」（33.5%）がほぼ同じ回答割合で続く。

性別では、「就労における男女の機会均等や働きやすい環境の整備を進める企業の取組を支援する」は女性・男性ともに高く、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」など子育てや介護に関する選択肢では、総じて女性が男性よりも回答割合が高い。

また、「その他」の記載欄には、『何もしないほうがよい』（男性）、『男女は身体の機能が違うのだから平等にはなり得ない』（女性）などの記述もあった。

問20 鳥取県で「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政は特にどのようなことに力を入れて行くべきだと思いますか。（〇は3つまで）

[図 20-1 行政が力をいれるべきこと（全体・性別）]

